

英語化した日本語（その2－3）（1）

伊 藤 孝 治

- I 英語・米語辞典によって採用された日本語
- II 「英語・米語辞典に見られる日本語」一覧
- III 日本語が欧米の文献に採り上げられた時期について

III 日本語が欧米の文献に採り上げられた時期について

（I）引用辞典表記

本誌第9巻第1号の「英語化した日本語」（その2）⁽¹⁾において扱った日本語（886語）のうち、英国系英語辞典《オックスフォード英語辞典（OED）》ならびにショーター・オックスフォード英語辞典（SOED）に収録された612語のうちの殆どすべての語⁽²⁾は文献初出等の年代が明記されている。今回のテーマに関しては上記の両辞典に準拠したが、主にOEDに負っている。その年代表記は18世紀初期であればE18、同世紀中期であればM18、同世紀末期であればL18と記した。

一方、米国系英語辞典「ランダムハウス・アメリカ俗語辞典（RHHDA S）」以外の辞典《ウェブスター英語辞典（W）、ランダムハウス英語辞典（RHD）、小学館・ランダムハウス英和辞典（SRHD）》では、文献初出年代が表記されていない。したがって、米国系辞典に収録された語については英国系辞典から年代が類推・推定できるもの、あるいは、他の事典などからその事象が現われた時点が確認できるものに限定したため28語にとどまった。したがって、英国系辞典からのものと併せると632語となる。

（II）移入年代

16世紀、キリスト教を伝えるために来日したキリシタン宣教師は、到着すると先ず自ら日本語を

学習した。そこで、彼らが未知の言語を習得するためには文典と辞典は不可欠であった。その当時のロドリゲス⁽³⁾の『日本大文典』や宣教師たちによる『日葡辞典』⁽⁴⁾などは日本語の学習に大いに役立ったことは言うまでもない。また、寛永10年（1639年）の鎖国によって欧米とわが国が唯一交渉を保ったオランダも日本語の学習・研究を行っていた。⁽⁵⁾ このようにわが国を訪れた欧米人（宣教師、医師、学者、公使館員、商館員、貿易商など）が著した文書を通じて日本文化が紹介されると同時に、日本語が英語を含めた外国語のなかに外来語として受け入れられたのである。

欧米の文献に一番最初に採り上げられた語として、16世紀初期の（以下E16とする）bonze（坊主）と kuge（公卿・公家）がある。OED（第2版）における初出の用例を bonze⁽⁶⁾ から3例を挙げてみると、

1552XAVIER *Epist.* V.xvii (1667) (Y.) Erubescunt enim et confunduntur Bonzii.

1588PARKE *Hist.China* 379 (Y.) ...They do call Bonsos, of the which there be great couents. / 1618R.Cocks *Diary* II.75 (Y.) There is 300 boze (or pagon pristess) ⁽⁷⁾.

わが国とイギリスとの通商が開始されたのは1613年からである。したがって、それ以前については英語以外の言語で書かれたものや日本以外の国に関する英文の記述がその用例となっている。

すなわち、第一番のフランシス・ザビエルが記したスペイン語の書簡では Bonzii、第二番のパークが著した中国史では Bonsos。そして、第三番目(1618年)になって初めてわが国の文化について記した英文の日誌(英国人、平戸商館長R.コックスによる)では boze である。実際 bonze が現われるのは *New Hist.China* (1688年) においてである。

つぎに、kuge⁽⁸⁾ についても用例を3つ挙げると、

1577 R.WILLES in Eden & Willestr. *Hist. Trauayle W. & E. Indies* f.25 The heads of his ministers are shauen, they haue name Cangues.

1727 J.G.SCHEUCHZER tr. *Kaempfer's Hist. Japan* I, II. 152. The whole Ecclesiastical Court in general assumes the title of Kuge, which signifies as much as Ecclesiastical Lords, and this they do by way of distinction from the Gege.

1871 A.B.MITFORD *Tales of Old Japan* I.71 The cap and robes worn by the Kugé, or nobles of the Mikado's court.

bonze の場合と同様、第一番の R. ウェルズ 翻訳本: *Hist. Trauayle W. & E. Indies* では Cangues、第二番のオランダ商館つきドイツ人医師ケンペル著 *Geschichte und Beschreibung des Japanischen Reichs* の翻訳本: *Kaempfer's History of Japan* では kuge、第三番の英国公使館員 A. ミットフォードの *Tales of Old Japan* でも同じく kuge である。

なお、bonze は OED(1)(2)、SOED と W(2)(3)、RHD(1)(2)、SRHD に収録されているのに対して、kuge は OED(2)、SOED と W(2) には収録されているが、他の米国系辞典において収録されなかったことから、前者に較べると劣勢である。

17世紀初期(以下E17と記す)において欧米の文献に採り上げられたのは、katana(刀), inro(印籠), itzebu(一分銀), kami(神), kobang(小判), mochi(餅), norimon(乗り物), shamisen(三味線), shogun(将軍), tabi(足袋), tai(鯛), tatami(畳), wacadash(脇差)の13語である。このうち、inro は W.Adams(三浦安針)の手紙(1671年)において最初に採用され

た語であるが、他の12語のすべてが R.コックスの日誌に扱われ、更にその4分の3の語⁽⁹⁾がこれを初出文献としている点が注目値する。つぎの3語は R.コックスの日誌刊行以前に採用されている。すなわち、katana(刀)は J.SARIS *Jrnl. Voy. Japan* (1613年)では cattans と、R.コックスでも同形で採用され、tr.*Asiatic Soc. Japan* (1874年)では katana となって定着している。tatami(畳)は tr.*Asiatic Soc. Japan* (1614年)での tatamee と R.コックスでの tattami とは異形であるが、PURCHAS *Pilgrimes* (1625年)では tatami となり定着している。wacadash(脇差)は W.Foster *Lett. recd.* (1613年)では wacadash、同年の *Voy. Japan* では waggadash、また、1615年の R.コックスでは waccadash、同年の W.アダムスの *Log. bk.* でも wakedassh のような異形が見られる。⁽¹⁰⁾

なお、katana (<catan⁽¹¹⁾>) という語の採用については、英国系辞典では OED(2) と SOED であるのに対して米国系辞典では W(2)(3), RHD(1) であることから、W(2)が先鞭をつけたのである。また、mochi を採用したのは英国系辞典の OED(2) と SOED のみで、米国系辞典では見られない。

17世紀中期(以下M17と記す)において欧米の文献に採り上げられたのは、dairi(内裏)と oban(大判)の2語のみである。前者の初出文献の J.DAVIES tr. *Mandelslo's Trav.E.Ind.* (1662年)では Dayro であるが、*Phil.Trans.* (1780年)では Dairi となり定着している。

後者の初出文献も前者と同じ著者の tr. *Mandelslo's Trav.* II. 147 では Oeban, *Reader* 21 Nov. 595 (1863年)では obang である。

17世紀末期(以下L17と記す)において欧米の文献に採り上げられたのは、moxa(艾^{もぐさ}), sake(日本酒), soy(醤油), soya(醤油)の4語である。

Phil. Trans. XII. (1677年)を初出文献とする語は moxa(もぐさ)である。これは他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

tr. *Thevenot's Traw.* III. 112. (1687年)を初出文献とする語は sake(日本酒)である。これは初出文献では saque、1797年の *Encycl. Brit.* では sakki、また、*Ceramic Art* 170 (1878年)で

の saki と sake とが併用されている。

J.OVINGTON *Voy. Suratt*³⁹⁷ (1696年) を初出文献とする語は soy (醤油) である。これは初出文献では souy、*Voy.* (1727) II. 1. 28 (1699年) では soy であるが、*Encycl. Brit.* IV. 2511/2 (1779年) においては、sooja と soy とが併用されている。そして以後 soy に定着している。

J. LOCKE *Jrnl. in Ld. King Life* I. 249 (1679年) を初出文献とする語は soya (醤油) である。これは初出文献では saio、tr. *Osbeck's Voy.* I. 253 (1771年) では soya、*Treas. Bot.* (1866年) では、sooja と soja とが併用され、*Times*²⁰ Apr. (1970年) においては、soya となり以後定着している。

18世紀初期 (以下E18と記す) において欧米の文献に採り上げられたのは、adzuki (小豆), ginkgo (銀杏), hinoki (檜), Hizen (肥前), Jodo (浄土、浄土宗), kaki (柿), kana (仮名), katakana (片仮名), katsuo (鰹), kaya (檣), ken¹ (間), kiri (桐), kirin (麒麟), koi (鯉・鯉幟), koi-cha (濃茶), koku (石), kuruma (牛車・人力車), matsu (松), matsuri (祭), Mikado (帝), miso (味噌), momme (匁), Nippon (日本), Ritsu (律宗), samurai (侍), satori (悟り), sen (銭), shaku² (尺), shikimi (柾), Shingon (真言宗), Shinshu (真宗>Shin Li9), Shinto (神道、神道信者), Shintoist (神道の信者), shoyu (醤油), siomio (小名), sugi (杉), sun (寸), Tendai (天台宗), tokonoma (床の間), torii (鳥居), tsubo (坪), urushi (漆), yashiki (屋敷), zazen (座禅), Zen (禅) の45語である。

18世紀中期 (以下M18と記す) において欧米の文献に採り上げられた日本語が見られないのは、おそらく鎖国を実施した当初よりもこの時期での統制が厳しかったためか、あるいは、日本に関する著作物が頻繁に刊行されなかったためであろう。⁽¹²⁾

18世紀末期 (以下L18と記す) において欧米の文献に採り上げられたのは、bonzery (僧堂), koto (琴), mebos (杏の菓子<日本語「梅干」), soybean (大豆), soy sauce (醤油), soya sauce (醤油) の6語である。

18世紀になると、わが国の鎖国政策のあおりを

受けて、オランダ以外のヨーロッパ諸国は日本と没交渉となり、英国もその例外ではなかった。

わが国はおよそ200余年オランダとは特別な関係を保つことにより、海外の情報を入手することができたのである。来日したオランダ人のなかには、資格・条件ともオランダ人ではない、ドイツ人やスウェーデン人なども含まれていた。当時はオランダ人ですら日本語の学習が禁じられていたが、彼らは日本語で書かれた和書などを盛んにヨーロッパへ搬出した。

なかでも、1690年来日したドイツ人ケンペルと1774年来日したスウェーデン人ツェンペリーによる日本研究はとくに注目してよい。

当時の英国においては、日本に関する情報はオランダ人を經由しなければならず、ケンペルやツェンペリーの著作などによってしか得られなかった模様で、この両者に負うところが大きい。

したがって、E18における45語のすべてが1727年のケンペルの著作⁽¹³⁾の翻訳本: *The History of Japan* を初出文献としている点は注目に値する。

そのうち、adzuki (小豆) は初出文献では adsuki or sodsu, A.STEINMETZ *Japan & her people* (1850) では adsuki or red beans であり、*Bull.U.S.Dept.Agric.* (1914) での adsuki と B.LEACH *Potter in Japan* (1960) での adzuki というように併用されている。

ginkgo (銀杏) は初出文献での ginau が *Gentl. Mag.* (1773) では ginkgo or maidenhair tree、また、*Pict.London* (1808) では gingo、O.W.HOLMES *Aut. Breakf-t.* (1858) では異形の ginkgo のように、ginkgo と gingko が併用されている。

hinoki (檜) は初出文献では finoki⁽¹⁴⁾ であるが、tr. *J.J.Rein's Japan* (1884) 以降は hinoki となり定着している。

Hizen (肥前焼) は初出文献ならびに *Narr. Elgin's China & Japan* (1859) では Fizen であるが、*Keramic Art Japan* (1875-80) 以降は Hizen となり定着している。

Jodo (浄土、~宗) は初出文献では Siodo、B.NANJIO *Short Hist. Twelve Jap. Buddhist Sects* (1886) では Jo-do-shu or Pure Land sect と W.E.GRIFFIS *Relig. Japan* (1895) では Jo-do

doctorine であるが、B.H.CHAMBERLAIN *Jap. Poetry* (1911) においては Jodo, 'the Pure Land' となり定着している。

kaki (柿) には他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

kana (仮名) は初出文献の I. I. IV. 98 では canna と IV. IV. 305 では kanno である。tr. *Asiatic Soc. Japan* (1874) 以降は kana となり定着している。

katakana (片仮名) は初出文献では kattakana、F. SHOBERL tr. *Titsingh's Illust. Japan* (1822) では kata-kana or women's letters、A. STEINMETZ *Japan & her people* (1859) では katagana であり、*Jrnl. Gen. Psychol.* (1970) 以降 katakana となり定着している。

katsuo (鰹) は初出文献では katsuwo、tr. *J.J. Rein's Japan* (1884) では katsu-uwo であり、L. HEARN *In Ghostly Japan* (1889) においては katsuo となり定着している。

kaya (榧) は初出文献では kai であるが、J.J. REIN *Industries Japan* (1889) 以降は kaya となり定着している。

ken¹ (間) は初出文献ならびに *Encycl. Metrop.* (1845) では kin であり、SATOW & HAWES *Handbk. for Travellers Cent. & N. Japan* (1884) 以降 ken となり定着している。

kiri (桐) は初出文献では kiri、tr. *Titsingh's Illust. Japan* (1822) では kiri-tree また、F. V. DICKINS *Chiushingura* (1875) では kiri wood であり、BLUNDEN *Jap. Garland* (1928) においては kiri となり定着している。

kirin (麒麟) には他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

koi (鯉) は初出文献では koi、SIR. E. ARNOLD の *Japonica* (1892) では koe であり、*Adzuma* (1893年) 以降 koi となり定着している。

koi-cha (濃い茶) は初出文献では koitsjaa、B.H.CHAMBERLAIN *Things Japanese* (1890) では koi-cha、また、B. LEACH *Potter in Japan* (1960) では koi cha であるが、W. SWAAN *Jap. Lantern* (1965) においては再び koi-cha となり定着している。

koku (石) には他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

kuruma (人力車)⁽¹⁵⁾ は初出文献では kuruma

or cover'd chariot, drawn by two oxen (牛車)、L. ハーンの *Glimpses Unfamiliar Japan* (1894) では jinrikisha, or kuruma (人力車) のように、運搬手段が牛車から人力車へと推移したことが分かる。

matsu (松) は初出文献では matzuoki、tr. *J.J. Rein's Japan* (1884) では aka-matsu or red pine, kuro-matsu or black pine, o-matsu or male pine であり、D.T. SUZUKI *Zen Buddhism & its Influence on Jap. Culture* (1938) においては matsu となり定着している。

matsuri (祭) は初出文献では matsuri、*Manners & Customs of Japanese* (1841) では matsuri festival であり、E.G. HOLTHAM *Eight Yrs. Japan* (1883) 以降 matsuri となり定着している。

Mikado (帝) は初出文献では Mikado、また、同書ならびに *Encycl. Metrop* (1845) では Mikaddo であるが、W. E. GRIFFIS *N. Amer. Rev.* (1875) においては再び Mikado となり定着している。

miso (味噌) は初出文献では midsu であり、*Chamber's Jrnl.* (1905) 以降 miso となり定着している。

momme (匁) は初出文献では mome または moni であるが、*Echo* (1898) 以降 momme となり定着している。

Nippon (日本) は初出文献では Nipon であるが、*Things Japanese* (1980) では Nippon となり定着している。

Ritsu (律宗) は初出文献では Rit である。E.J. REED *Japan* (1880) では Ritsu. *Jap Buddhism* (1935) では Risshu であるが、用例では Ritsu の方が優勢である。

samurai (侍) は初出文献では samurai、tr. *C.P. Thunberg's Trav. Europe, Afr. & Asia* (1795) では samurai, *Chinese Repository* (1841) では samorai であり、LADY HERBERT tr. *Hubner's Ramble* (1874) 以降 samurai となり、また、samurai-minded という複合語もある。

satori (悟り) には他の異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

sen (銭) は初出文献と *Penny Cycl.* (1839) では sennis、PINKERTON *Mod. Geog., Japan* (1802)

では *seni* であるが、BEDFORD *Sailor's Pocket Bk.* (1875) 以降 *sen* となり定着している。

*shaku*² (尺) は初出文献では *sackf, sak, saku* であるが、tr. *Asiatic Soc. Japan* (1878) 以降 *shaku* となり定着している。

shikimi (櫛) は初出文献では *skimmi, Jrnl. Chem. Soc.* (1881) では *shikimine, J.J. レイン* の *Industries Japan* (1889) では *skimi* であるが、L. HEARN *Kokoro* (1896) 以降 *shikimi* となり定着している。

Shingon (真言宗) は初出文献ならびに *Chinese Repository* (1834) では *Singon* であり、E. J. REED *Japan* (1880) 以降 *Shingon* となり定着している。

Shinshu (真宗) は初出文献では *Sensju, L. ハーン* の *Kokoro* (1896) では *Shinshu* となっているが、一方、W. E. グリフィスの *Mikado's Empire* (1877) ならびに L. ハーン の *Japan: Attempt at Interpretation* (1904) では *shin* のような異形も見られる。

Shinto (神道、～信者) は初出文献では *Sinto, Encycl. Metrop.* (1829) では *Sin-to* であり、N. *Amer. Rev.* (1875) 以降 *Shinto* となり定着している。

shintoinst (神道の信者) は初出文献では前述の語と同様 *Sintoist* であり、また、N. *Amer. Rev.* (1875) においても *Shintoist* である。

shoyu (醤油) は初出文献では *soeju, I. L. BIRD* *Unbeaten Tracks in Japan* (1880) では *soy* (*sho-yu*) であり、*Japan Advertiser* (1920) 以降 *shoyu* (*shoyu sauce*) となり定着している。

Siomio (小名) は初出文献ならびに *Penny Cycl.* (1839) では初出のとおりである。なお、その異形 *Shomio* の用例が掲載されてない。更に、この *siomio* は O E D (1) Supplement 以後に刊行された O E D (2) および S O E D においては不用語と見做されて収録されてないことも明記しておかねばならない。

sugi (杉) は初出文献では *suggi, C. P. Thunberg's Trav.* (1795) では *ssugi* であるが、tr. *Asiatic Japan* (1876) 以降 *sugi* となり定着している。

sun (寸) には他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

また、Tendai にも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

tokonoma (床の間) は初出文献では *tokko*、また、tr. *Titsingh's Illustration of Japan* (1822) では *toko* であり、A. B. ミットフォードの *Tales of Old Japan* (1871) 以降 *tokonoma* となり定着している。

torii (鳥居) は初出文献では *torij*、また、tr. *Humbert's Japan & Japanese* (1874) では *tori* であり、同年の tr. *Asiatic Soc. Japan* 以降 *torii* となり定着している。

tsubo (坪) には他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

urushi (漆) は初出文献では *urusi or vanish-tree*、また、*Encycl. Brit.* (1881) では *urushi tree* であるが、*Cent. Dict.* (1909) 以降 *urushi* (*Japanese lacquer*) となり定着している。

yashiki (屋敷) は初出文献では *jassiki, R. A. LOCK* *Capital of Tycoon* (1863) では *yaski* であり、R. A. CRAM *Impressions Jap. Archit.* (1906) 以降 *yashiki* となり定着している。

zazen (座禅) は初出文献では *safen* であり、*Princ. Pract. & Enlightenment Soto Sect* (1897) 以降 *zazen* となり定着している。

Zen (禅) は初出文献では *Sen* であり、*Chinese Repository* (1834) 以降 *Zen* となり定着している。

一方、L 18 の 7 語のうち、*koto* (琴)、*mebos* (杏の菓子)、*soybean* (大豆)、*soy sauce* (醤油) の 4 語はともに tr. C. ツェンペリーの *Trav. Europe, Afr. & Asia* (1793-5) を初出文献としている。このうち、*koto* は他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。*mebos* は初出文献では *mebos*、*Northern Post* (1912) では *meibos* または *meebosje* であるが、S. CLOETT *Watch for Dawn* (1939) 以降は再び *mebos* となり定着している。*soybean* は初出文献では *soy bean*、TODD (tr. Thunberg) では *soy-bean* であるが、*N. Y. Times Encycl. Almanac* (1970) 以降 *soybean* となり定着している。*soy sauce* は初出文献では *soy-sauce* であるが、R. KIRKBRIDE *Tamiko* (1959) 以降 *soy-sauce* となり定着している。

bonzery (僧堂) の用例掲載は初出文献となる

PRIESTLEY *Lect. Hist.* (1788) のみである。

soya sauce (醤油) は O E D には収録がないため、R H D (2) の年代表記 [1785-95] に準拠している。

19世紀初期 (以下 E 19 と記す) において欧米の文献に採り上げられたのは、Ainu (アイヌ、アイヌ語), aucuba (アオキ), daimio (大名), hiragana (平仮名), koro (香炉), mondo² (蛇の髭), Obaku (黄檗宗), Rinzai (臨済宗), Ryukyu (琉球列島、～の), yukata (浴衣), zori (草履) の 11 語である。

19世紀中期 (以下 M 19 と記す) において欧米の文献に採り上げられたのは、bonzess (尼僧), hakama (袴), hara-kiri (割腹), hibachi (火鉢), iroha (いろは), jito (地頭), kago (駕籠), manyogana (万葉仮名), nandina (南天), Nipponese (日本人、日本の), noshi (熨斗), ri (里), sasanqua (山茶花), shakudo (赤銅), samisen (三味線), Shintoism (神道), shogi (将棋), shogunship (幕府), skimmia (櫛), tempo (天保銭), tycoon (大君、実業界の巨頭), tycoonate (将軍職), uchiwa (団扇), uta (短歌), Yeddo (江戸), Yeddo poplin (江戸ポプリン), ziogoonship (将軍職) の 27 語である。

19世紀末期には、鎖国以後の世界情勢の変化——欧米列強諸国によるアジア侵略の動きには抗しきれず、鎖国政策を断念して開国に踏み切らざるを得なかった。その魁はペリーの来航である。わが国は明治維新後欧米の文化を率先して導入すると共に、自国の文化の流出も容認した。勿論、日本語の海外への流出も盛んとなった。この時期 (L 19) において海を渡った日本語の数は第 2 次大戦後 (M 20) に匹敵するほどの勢いで、当時欧米において流行したジャポニズムにも負うところがあった。

19世紀末期 (以下 L 19 と記す) において欧米の文献に採りあげられたのは、Ainu (アイヌの、アイヌ語の), amado (雨戸), Arita (有田焼、～の), awabi (鮑), banzai (万歳), baren (馬連), bekko (鼈甲), Bon (お盆), bugaku (舞楽), bushido (武士道), daimiate (大名職), eta (えた), fusuma (襖), futon (布団), geisha (芸者), geisha girl (芸者), genro (元老), geta (下駄), go (碁), gobang (五目ならべ), habu (波布),

habutai (羽二重), haiku (俳句), hanami (花見), hanashika (咄家), haori (羽織), happi-coat (法被), hatamoto (旗本), hechima (糸瓜), Heian (平安時代の), heimin (平民), hinin (非人), Hirado (平戸の、平戸焼), hokku (発句、俳句), Imari (伊万里焼), inkyo (隠居), jinricksha (人力車), jo-do-shu (浄土宗), joro (女郎), joruri (浄瑠璃), judo (柔道), jujitsu (柔術), junshi (殉死), kabane (姓), kabuki (歌舞伎), kagura (神楽), kakemono (掛け物), Kakiemon (柿右衛門焼、～の), Kakiemon ware (柿右衛門焼), kakke (脚気), kamidana (神棚), kamikaze (神風), katsuobushi (鰹節), ken² (拳), ken⁴ (県), kikyō (桔梗), kimon (鬼門), kimono (着物), kimonoed (着物を着た), koji (麹), Kokka (国家神道の), kombu (昆布), konnyaku (蒟蒻), Korin (尾形光琳風の、尾形光琳), kotatsu (炬燵), kudzu (葛), kura (倉), Kuroshiwo (黒潮), kurumaya (車ひき), Kutani (九谷焼), kyogen (狂言), magatama (勾玉), makimono (巻物), Meiji (明治時代), metake (女竹), miai (お見合い), Mikadoate (天皇制), mitsumata (三桎), mokum (木目), mon (紋所), mousmee (日本娘), moxocausis (灸), Nabeshima yaki (鍋島焼), nakodo (仲人), Nashiji (梨子地), netsuke (根付), Nichiren (日蓮宗), Nihon (日本), No (能), nori (海苔), obi (帯), oiran (花魁), ojime (緒締), okimono (置物), raku (楽焼), ramanas (ハマナス), renga (連歌), rickshaw (人力車の略称), rickshawman (人力車夫), rikka (立花), rin (厘), Roju (老中), ronin (浪人), ryo (一両), ryu (日本流), sake bottle (徳利), sake shop (酒屋、飲み屋), sakura (桜), samurai (侍の), -san (さん), sashimi (刺身), Satsuma (薩摩焼、蜜柑), sayonara (さよなら), sennin (仙人), sensei (先生), seppuku (切腹), Seto (瀬戸焼), shaku¹ (笏), shakuhachi (尺八), shibuichi (四分の一、おぼろ銀), shiitake (椎茸), Shijo (四条派の), shikimic (シキミ酸の), shikimin (グルコシド結晶), shikimol (サフロール), Shin (真宗 < shinshu), Shintoistic (神道の), shintoize (神道化する), shippo (七宝焼), sho¹ (升), sho² (笙), shogunal (将軍の),

shogunate (幕府), shogunite (将軍派), shoji (障子), Shuha (教派神道の、cf.Kokka), shugo (守護), sika (鹿), soba (蕎麦), soroban (十露盤), soshi (壮士), Soto (曹洞宗), soya bean (大豆), soy biscuit (大豆ビスケット), soy flour (大豆粉), suimono (吸い物), sumo (相撲), surimono (色刷り版画), shushi (寿司), taiko (太鼓), Taka-diastrase (タカジアスターゼ), tan (反), Tanabata (棚機), tanka (短歌), tansu (箆笥), tanto (短刀), temmoku (天目茶碗), to (斗), tofu (豆腐), togidashi (研ぎ出し蒔絵), Tokugawa (徳川時代の), Tosa picture (土佐絵), tsuba (鐔), tsukemono (漬物), tsunami (津波), tycoonism (大君制), uguisu (鶯), uji² (氏), ujigami (氏神), ukiyo-e (浮世絵), wakizashi (脇差), Yamato-e (大和絵), Yamato-ryu (大和流), yen (円), Yokohama (横浜、尾長鶏), Yokohama crape (横浜クレープ), Yoshiwara (吉原遊廓、吉原の), zabuton (座布団), ziogoon (将軍) の180語である。

E 19における11語のうち、tr. *Titsingh's Illust. Japan* (1822) を初出文献とするのは、hiragana (平仮名), koro (香炉), yukata (浴衣), zori (草履) の4語である。このうち、hiragana は初出文献では firokanna であるが、*Japan & her people* (1859) では hirakana、また、I.TAYLOR *Alphabet* (1883) では異形の hiragana が見られるように併用されている。koro は *Japan & its Art* (1889) では ko-ro であるが、*Handbk. Travellers Japan* (1891) 以降は再び koro となり定着している。yukata は初出文献では ukata であるが、*Handbk. Japan* (1881) 以降 yukata となり定着している。zori は初出文献では sori、tr. *Rein's Japan* (1884) 以降 zori となり定着している。

また、*Chinese Repository* (1833) を初出文献とするのは、Obaku (黄檗宗) と Rinzai (臨済宗) の2語である。前者は初出文献において Oobaku、tr. *Asiatic Soc. Japan* (1894) では Obaku となり定着している。後者には他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

つぎの4語は初出文献をそれぞれ異にしている。Ainu (アイヌ、アイヌ語) は初出文献 tr. *Golounin's Recoll. Japan* (1819) では Ainu、

また、*Nat. Hist. Man* (1843) では異形の Aino のように併用されている。aucuba (アオキ) には他に異形がなく初出文献の REES *Cycl.* (1819) に掲載のとおり定着している。daimio (大名) は初出文献 *Penny Cycl.* (1839) では daimio であるが、異形の daimyo とが併記されている。Ryukyu (琉球列島、～の) は初出文献 *Asiatic Researches* (1808) では異形の Riu-kiu であるが、WEBSTER S.V. *agglutinative languages* (1934) 以降 Ryukyu となり定着している。

なお、mondo² (蛇の鬚) は OED には収録がないため、S O E D に表記された年代 (E19) に準拠した。

M19における27語のうち、*Encycl. Metrop* (1845) を初出文献とするのは、iroha (いろは), jito (地頭), ri (里) の3語である。このうち、iroha は初出文献では irofa ならびに *Japanese Gram.* (1868) では irova であるが、B.H. CHAMBERLAIN *Thing Japanese* (1890) 以降 i-ro-ha (iroha) となり定着している。jito も初出文献では gito であるが、L.ハーンの *Kotto* (1902) 以降 jitō となり定着している。ri には他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

また、*Capital of Tycoon* (1863) を初出文献とするのは、hibachi (火鉢) と tycoonate (将軍職) の2語である。このうち、前者は初出文献では hebachi であるが、tr. *Asiatic Soc.* (1874) 以降は hibachi となり定着している。後者には他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

また、*Amer. in Japan* (1857) を初出文献とするのは kago (駕籠) と Shintoism (神道) の2語である。前者には他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。後者は初出文献ならびに E.ARNOLD *Seas & Lands* (1889) での Shintooism、また、*Chamb. Encycl.* (1884) での Sintoism とが併用されている。

また、R.HILDRETH *Japan* (1855) を初出文献とするのは noshi (熨斗) と uta (短歌) の2語である。前者は初出文献では nosi であるが、*Japanese Girl & Women* (1891) 以降 noshi となり定着している。後者には他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

また、*Mann. & Cust. Japanese* (1841) を初

出文献とするのは、shogunship (幕府) と ziogoonship (将軍職) の2語である。この両者とも用例掲載は初出文献のみである。

また、A. Adburgham *Shops & Shopping* (1866) を初出文献とするのは、Yeddo (江戸) と Yeddo poplin (江戸ポプリン) の2語である。前者の用例掲載は初出文献のみである。後者は初出文献ならびに *Dict. Eng. Costume* (1960) においても初出文献に掲載のとおりである。

bonzess (尼僧) は初出文献 *All Y. Round* (1860) における用例しか掲載がない。

hakama (袴) は初出文献の *Japan & her people* (1859) では hakkama であるが、A.B. ミットフォードの *Tales of Old Japan* (1871) 以降 hakama となり定着している。

hara-kiri (腹切り、割腹) ⁽¹⁶⁾ は初出文献 *Harper's Mag. Mar.* (1856) ならびに *Times* (1859) での hari-kari と *Tales of Old Japan* (1871年) での hara-kiri とが併用されている。

manyogana (万葉仮名) は初出文献 *Japanese Gram.* (1868) では man-you-kana、また、tr.S. Okuma's *Fifty Yrs. of New Japan* (1909) では manyo-kana であるが、G.B.SANSOM *Hist. Gram. Japanese* (1928) 以降 manyogana となり定着している。

nandina (南天) には他に異形がなく初出文献 *Cottage Gardener's Dict.* (1852) に掲載のとおり定着している。

Nipponese (日本人、～の) にも他に異形がなく初出文献の *Two Journeys to Japan* (1859) に掲載のとおり定着している。

sasanqua (山茶花) は初出文献 LINDLEY & MOORE *Treas.* (1866) では sasanqua と tr.Asiatic Soc. *Japan* (1878) では sasanka または sasankwa とが併用されている。

shakudo (赤銅) は初出文献 S.B.KEMISH *Jap. Empire* (1860) では syakfdo、そして *Encycl. Brit.* (1911) 以降 shakudo となり定着している。

samisen (三味線) は *Chinese Repository* (1840) では samishen であるが、*Tales of Old Japan* (1871) 以降は samisen が優勢となっている。また、異形の shamisen の併用も見られる。

shogi (将棋) は初出文献 *Japan Opened*

(1858) では sho-ho-ye、tr. J.J. Rein's *Japan* (1884) 以降 shogi または sho-gi とが併用されている。

skimmia (檜) は初出文献 *Curtis's Bot. Mag.* (1853) に掲載のとおり定着しているが、また異形 shikimi の併用も見られる。tempo (天保銭) は初出文献 R. H. DANA *Jrnl.* 11 Apr. (1860) では tempo、また、N. G. MNUNRO *Coins of Japan* (1904) では Ten-Ho, Tsu-Ho であるが、*Amer. Jrnl. Numismatics* (1917) 以降 tempo となり定着している。

tycoon (大君) は初出文献 T.HARRIS *Diary* (1857) では tykoon、また、SIR R.ALOCK *Encycl. Brit.* (1881) では taikum であるが、*Outing* (U.S.) (1886) 以降 tycoon となり定着している。

uchiwa (団扇) は初出文献 W.E.グリフィスの *Mikado's Empire* (1877) では uchiwa、また、A.DIOSY *New East* (1898) では uchi-wa であるが、J.KIRKUP *Japan behind Fan* (1970) では再び uchiwa となり定着している。

L 19における180語のうち、*Asiatic Soc. Japan* (1898) を初出文献とするのは bushido (武士道), futon (蒲団), haori (羽織), happi-coat (法被), hechima (糸瓜), heimin (平民), hokku (発句), Judo (柔道), nashiji (梨子地), ryu (日本流), tanto (短刀), tofu (豆腐), togidashi (研出蒔絵、～の), Tosa (土佐派), tsukemono (漬物), ukiyo-e (浮世絵), Yamato-e (大和絵), Yamato-ryu (大和流) の18語である。このうち、bushido は初出文献での bushidō と *19th Cent. Jap.* (1923) での bushido とが併用されている。futon には他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。haori は初出文献では haōri であるが、*Chiushingura* (1880) 以降 haori となり定着している。happi-coat は初出文献では happi であるが、*Studies Eng. Lit.* (1931) 以降は happi-coat が主流となっている。hechima, heimin には他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。hokku の用例掲載は初出文献のみである。

judo は初出文献では jiudo であるが、*Glasgow Herald* (1921) 以降 judo となり定着している。nashiji は *Japanese Art* (1904) で

は nashidji であるが、*ABC of Japanese Art* (1911) 以降 nashiji となり定着している。ryu は初出文献では riu であるが、*Fighting Spirit Japan* (1913) 以降 ryu となり定着している。tanto には他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。tofu は初出文献では tōfu と *Bull. U.S. Dept. Agric.* (1905) で tofu とが併用されている。togidashi は初出文献では togi-dashi また、*Times* (1972) 以降 togidashi とが併用されている。Tosa は初出文献では Tosa school と *Jap. Art* (1909) で Tosa Picture とが併用されている。tsukemono は初出文献では同形、*Japan Advertiser* (1920) では tsuki-mono であるが、*People of Japan* (1968) では再び tsukemono となり定着している。ukiyo-e は初出文献では ukiyowe また、*Gleaning in Buddha-Field* (1898) では ukiyo-ye であるが、*Dial.* (1915) では uki-yoe となり定着している。Yamato-e は初出文献では Yamato-we であるが、*Jap. Scroll Painting* (1935) では Yamato-e となり定着している。Yamato-ryu は初出文献では Yamato riu であるが、*Encycl. Brit.* (1911) では Yamato-ryū となり定着している。

Tales of Old Japan (1871) を初出文献とするのは hatamoto (旗本), inkyo (隠居), junshi (殉死), ki-mon (鬼門), kyogen (狂言), No (能), oiran (花魁), ronin (浪人), ryo (両), seppuku (切腹), shogunate (幕府), tan (土地の反), to (斗), uguisu (鶯) の14語である。このうち、hatamoto, junshi には他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。inkyō は初出文献では inkyō であるが、*Kokoro* (1896) では inkyō となり定着している。ki-mon は初出文献での ki-mon と *Oriental Series: Japan* (1901) で kimon とが併用されている。kyogen は初出文献では kiyōgen、また、*Hist. Jap. Lit* (1899) では kiōgen また、*Encycl. Brit.* (1911) では kyōgen であるが、*Spector* (1958) では kyogen となり定着している。No は初出文献では Nō であるが、*E. POUND Lett.* (1927) 以降 No と Noh とが併用されている。oiran には他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。ronin は初出文献では rōnin

であるが、*From Sea to Sea* (1899) 以降 ronin となり定着している。ryo は初出文献では riyo、また *Mikado's Empire* (1876) では riō であるが、*In Ghostly Japan* (1899) では ryo となり定着している。seppuku, tan (土地の反), to, uguisu には他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。shogunate は初出文献では同形であり、*New Japan* (1873) では siogoonate であるが、*R. Cooks' Diary* (1883) では shogunate となり定着している。

Things Japanese (1890) を初出文献とするのは、go (碁), jōruri (浄瑠璃), kabane (姓), ken² (拳), miai (お見合), nakodo (仲人), soshi (壮士), suimono (吸物) の8語である。このうち、go は初出文献では Go、または、*Goh or Wei Chi* (1911) では Goh、または、*Board & Table Games* (1960) では I-go のように併用されている。joruri は初出文献での jōruri と *Jap. Lantern* (1956) で joruri とが併用されている。kabane, ken² (拳) には他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。miai は初出文献では mi-ai であるが、*Kotto* (1902) 以降 miai となり定着している。nakodo は初出文献では nakōdo であるが、*True Face of Japan* (1936) 以降 nakodo となり定着している。soshi, suimono には他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

The mikado's empire (1876) を初出文献とするのは、Arita (有田焼、～の), kotatsu (炬燵), shin (真宗、～の), sho¹ (升), tan (布の反), Tokugawa (徳川時代、～の), uji² (氏) の7語である。この Arita を含む7語すべてには他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Unbeaten tracks in Japan (1890) を初出文献とするのは、Ainu (アイヌの、アイヌ語の), amado (雨戸), fusuma (襖), kurumaya (車ひき、車屋), sashimi (刺身), shoji (障子), Tanabata (棚機、七夕) の7語である。このうち、Ainu は初出文献での Aino、また、*Alone with the Hairy Ainu* (1893) で Ainu のように併用されている。amado, fusuma, kurumaya, sashimi には他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。shoji は初出文献では shōji であるが *Mysterious Japan*

(1922) 以降 shooji となり定着している。Tanabata は初出文献では tanabata、また、*Lure of Japan* (1934) では Tanabata Matsuri、*Art of Jap. Prints* (1980) では Tanabata festival のように併用されている。

Keramic Art of Japan (1875-81) を初出文献とするのは、Imari (伊万里焼), raku (楽焼), sennin (仙人), Seto (瀬戸焼), ziogoon (将軍) の5語である。このうち、Imari には他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。raku は初出文献では raku、また、*Things Japanese* (1890) では raku-yaki であるが、*Potter in Japan* (1960) 以降 raku となり定着している。sennin は初出文献では sennen であるが、*Myths Legends of Japan* (1912) 以降 sennin となり定着している。Seto は初出文献では Seto、また、*Wayfarer in Unfamiliar Japan* (1925) では Seto-mono であるが、*Ceramic Art of & Other Countries* (1945) 以降再び Seto となり定着している。ziogoon の用例掲載は初出文献のみである。

Japan: travels and researches (1884) を初出文献とするのは、geta (下駄), hinin (非人), kikyō (桔梗), sakura (桜), sensei (先生) の5語である。このうち、geta, hinin, sakura には他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。kikyō は初出文献では kikyō、また、*In Ghostly Japan* (1899) では kikyō-flower そして *Encycl. Brit.* (1911) 以降は kikyō となり定着している。sensei は初出文献では sen-sei、そして *Mind's Eye* (1934) では sensei となり定着している。

Japanese girls and women (1891) を初出文献とするのは、hanami (花見), hanashika (咄家), joro (女郎), katsuobushi (鰹節), rin (厘) の5語である。このうち、hanami, hanashika, katsuobushi, rin には他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。joro は初出文献では jōro、また、*Let.* (1899) では Joro girl であるが、*Advt. for Myself* (1975) 以降 joro となり定着している。

Industries Japan (1889) を初出文献とするのは、bekko (亀甲), mitsumata (三桎), tsuba (鐔) の3語である。このうち、bekko の用例掲

載は初出文献のみである。tsuba には他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。mitsumata は初出文献では mitzu-mata、また、*Things Japanese* (1891) では mitsu-mata、そして *Papermaking Pilgrimage Japan, Korea & China* (1936) 以降は mitsumata となり定着している。

Jap. Pottery (1880) を初出文献とするのは、Hirado (平戸の、平戸焼), Kutani (九谷焼), temmoku (天目茶碗) の陶器に関する3語である。このうち Hirado は初出文献での Hirato と *Keramic Art Japan* (1881) での Hirado とが併用されている。Kutani には他に異形がないが、*Potter in Japan* (1960) での Kutani ware と *N.Y. Times* (1967) での Kutani porcelain とが併用されている。temmoku も他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Handbk. for Travellers Cent. & N. Japan (1884) を初出文献とするのは、kagura (神楽), kombu (昆布), Kōrin (尾形光琳、~風の) の3語である。この三者はともに他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Bankin's Captive Love (1885) を初出文献とするのは、sake bottle (徳利), sake shop (酒屋、飲み屋), samurai (侍、~の) の3語である。このうち sake bottle, sake shop の用例掲載はともに初出文献のみである。samurai には他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Pall Mall G. (1870) を初出文献とするのは、daimiate (大名職、大名領), rickshaw (人力車の略称) の2語である。daimiate は初出文献での daimiote, また、*Athenaeum* (1882) での daimiote を経て、前書 (1889) 以降 daimiate となり定着している。rickshaw は初出文献では riksha であるが、*Phantom Rickshaw* (1889) 以降 rickshaw となり定着している。

Chikamatsu's Chiushingura (1874) を初出文献とするのは、kamidana (神棚), shaku¹ (笏) の2語である。kamidana は初出文献では kamidana であるが、その後 *Evol. Japanese* (1903) ならびに *Playing Game* (1905) では翻訳語の god-shelf が用いられている。shaku¹ には他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着し

ている。

Gram. Jap. Written Lang. (1877) を初出文献とするのは、renga (連歌), tanka (短歌) の文学に関する 2 語である。renga は初出文献での renka、また、*Things Japanese* (1890) での renga を経て *Jap. Poetry* (1911) 以降 renga となり定着している。tanka には他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Cent. Dict. (1889) を初出文献とするのは、awabi (鮑), sika (鹿) の 2 語である。awabi には他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。sika は初出文献では sika、*Animal Friends & Foes* (1957) では sika deer であるが、*Deer Farmer* (1981-2) では sika となり定着している。

Japan & its Art (1889) を初出文献とするのは、ojime (緒締), zabuton (座蒲団) の 2 語である。ojime は初出文献では ojime、*Oriental Series: Japan* (1902) では ōjime であるが、*Times* (1960) 以降は ojime となり定着している。zabuton には他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Jap. Pott. (1890) を初出文献とするのは、Kakiemon (柿右衛門焼、～の), Kakiemon ware (柿右衛門焼) の 2 語である。Kakiemon は初出文献では Kakiyemon であるが、*Schmidt's Porc.* (1932) では Kakiemon となり定着している。Kakiemon ware は初出文献では Kakiyemon ware であるが、*Oxf. Compan. Art* (1970) では Kakiemon ware となり定着している。

Hist. Empire Japan (1893) を初出文献とするのは、Heian (平安時代の), shugo (守護) の 2 語である。Heian と shugo はともに他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Allbutt's Syst. Med (1877) を初出文献とするのは、soy biscuit (大豆ビスケット), soy flour (大豆粉) の 2 語である。この両者の用例掲載は初出文献のみである。

Gleaning in Buddha-Fields (1897) を初出文献とするのは、tsunami (津波), ujigami (氏神) の 2 語である。tsunami には他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。ujigami は初出文献での ujigami と G.B.SANSOM *Japan*

(1931) での uji-gami とが併用されている。

Hist. Jap. Lit. (1899) を初出文献とするのは haiku (俳句), kabuki (歌舞伎) の 2 語である。haiku は初出文献での haikai、また、*Asiatic Soc. Japan* (1899) での hokku、*Long Love* (1957) での haiku とが併用されている。kabuki には他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Hokusai (1899) を初出文献とするのは、shogunal (将軍の), surimono (色刷り版画) の 2 語である。shogunal の用例掲載は初出文献のみである。surimono には他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

*Fortn. Rev. Aug.*¹⁵⁴ (1870) を初出文献とするのは、Yoshiwara (吉原遊廓、～の) の 1 語である。これには他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Keramic Gallery (1872) を初出文献とする語は、Satsuma (薩摩焼) である。これは限定詞で、異形を持たず初出文献に掲載のとおり定着している。

Kinsé Shiraku: Hist. Japan (1873) を初出文献とする語は、Meiji (明治時代) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Hist. Japan (1874) を初出文献とする語は、rōjū (老中) である。これは初出文献での rōjiu、tr. *Hist. Empire Japan* (1893) での rochu、tr. *Saint's Hist. Japan* (1912) での rōchū を経て、J.MURDOCH *Hist. Japan* (1922) 以降 rōjū となり定着している。

tr. *Hubner's Ramble* (1874) を初出文献とする語は、jinrikisha (人力車) である。これは初出文献では jinriksha、*Times* (1876) では jinrick-sha、*Japan* (1880) では jin-ri-ki-sha、そして *Zigzag Travels* (1895) では jinrikisha となり定着している。

Colburn's United Service Mag.^{Oct.}⁸ (1875) を初出文献とする語は、sayonara (さよなら) である。これは初出文献では sionara であるが、*Golden Days for Boys & Girls* (1880) 以降 sayonara となり定着している。

Fu-so Mimi Bukuro (1875) を初出文献とする語は、shippo (七宝焼) である。これは初出文

献では shipo-seven precious jewels であるが、tr. *Rein's Industries of Japan* (1889) 以降 shippo となり定着している。

Japan Mail (1875) を初出文献とする語は、jujitsu (柔術) である。これは初出文献での jiu-jitsu と *Let.* (1891) での jujutsu を経て、*Wrestlers & Wrestling* (1895) 以降 jujitsu となり定着している。

Money (1875) を初出文献とする語は、yen (円) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Garden (1876) を初出文献とする語は、ramanas (ハマナス) である。これは初出文献での ramanas rose と ramanas とが併用されている。

Life Japan (1876) を初出文献とする語は、tycoonism (大君制) である。この用例掲載は初出文献のみである。

Nippon & its Antiquities (1876) を初出文献とする語は、magatama (曲玉、勾玉) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

tr. *Shézan Yashi's Kinsé Shiriaku* (1876) を初出文献とする語は、genro (元老) である。初出文献では genrô であるが、E.J. REED *Japan* では genro となり定着している。

Grevilla (1877) を初出文献とする語は、shiitake (椎茸) である。これは初出文献での shii-take が *Nature* (1936) 以降 shiitake となり定着している。

Jrnl. Soc. Arts (1878) を初出文献とする語は、-san (…さん) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Nature (1878) を初出文献とする語は、koji (麹) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Voy. Sunbean (1878) を初出文献とする語は、obi (帯) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

tr. *Jacquenart's Hist. Furniture* (1878) を初出文献とする語は、mon (紋所) である。この用例掲載は初出文献のみである。

Gram. Jap. Ornament (1880) を初出文献とする語は、shibuichi (四分一) である。これは

初出文献では shibu-ichi、そして *Encycl. Brit.* (1902) 以降 shibuichi となり定着している。

Tourist's Guide Yokohama (1880) を初出文献とする語は、sumo (相撲) である。これは初出文献では sumô、*Mysterious Japan* (1923) での sumo と *New Scientist* (1966) での sumo wrestling とが併用されている。

Unbeaten Jap. Archit. (1880) を初出文献とする語は、kura (倉) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Wild Coast Nippon (1880) を初出文献とする語は、mousmee (日本娘) である。これは初出文献での musumee と、*Longm. Mag.* (1905) での mousmee とが併用されている。

Jrnl. Chem. Soc. (1881) を初出文献とする語は shikimine (グルコシドの結晶) である。これは初出文献での shikimine と *Intro. Materia s.v. Star Anise Fruit* (1899) での sikimin とが併用されている。

Dict. Needlework, Yokohama Crape (1882) を初出文献とする語は、Yokohama Crape (横浜クレープ) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Encycl. Brit. (1882) を初出文献とする語は、ken³ (県) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Ornamental Arts Japan (1882) を初出文献とする語は、makimono (巻き物) である。これは初出文献では makimono、*Handbk. for Travellers Cent. & N. Japan* (1884) では maki-mono、そして *Artistic Japan* (1889) 以降 makimono となり定着している。

Proc. 18th Session Amer. Pomological Soc. (1882) を初出文献とする語は、Satsuma (蜜柑) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Century Mag. (1883) を初出文献とする語は、netsuke (根付け) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

tr. *A. de Candolle's Orig. Cultivated Plant* (1884) を初出文献とする語は、konnyaku (蒟蒻) である。これは初出文献では konjak、*Wise Bamboo* (1954) では konnyaku、*Japan behind Fan* (1970) では konyaku、*Vegetable Bk.*

(1972) では koniaku というように併用されている。

Murray's Handbk. Japan (1884) を初出文献とする語は、Shijo (四条派の) である。これは限定詞で、異形を持たず初出文献に掲載のとおり定着している。

SIR J. MURRAY *Encycl. Brit.* (1885) を初出文献とする語は、kuroshiwo (黒潮) である。これは初出文献では Kuro-Siwo、*Seas* (1928) での Kuro-Shiwo、*Oceanogr. & Marine Biol.* (1967) での Kuroshio とが併用されている。

Encycl. Brit. (1885) を初出文献とする語は、Yokohama (尾長鶏) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Cruise 'Marchesa' (1886) を初出文献とする語は、gobang (五目並べ、連珠) である。これは初出文献での goban または go bang、*Pall Mall G.* (1888) での go-bang とが併用されている。

Japanese Homes & their Surroundings (1886) を初出文献とする語は、tansu (箆笥) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Japanese Life, Love, & Legend (1886) を初出文献とする語は、kimono (着物、～の) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。ただし、限定詞として用いられたばあいには限り、たとえば、kimona sleeve のように kimona という異形がある。

Jrnl. Chem. Soc.L. ⁹⁵ (1886) を初出文献とする語は、shikimic (シキミ酸の) である。これは限定詞で、異形を持たず初出文献に掲載のとおり定着している。

Marks Pott. & Porc. (1886) を初出文献とする語は、Nabeshima yaki (鍋島焼) である。これは初出文献では Nabeshima yaki、*Jap. Porcelain* (1965) 以降 Nabeshima となり定着している。

Pict. Art Japan (1886) を初出文献とする語は、okimono (置物) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Short Hist. Twelve Jap. Buddhist Sects (1886) を初出文献とする語は、Jō-do-shū (浄土宗) である。この用例掲載は初出文献のみである。

Jrnl. Chem. Soc. LIV. ⁴⁹⁵ (1888) を初出文献とする語は、shikimol (サフロール) である。この用例掲載も初出文献のみである。

Music of Water (1888) を初出文献とする語は、sho² (笙) である。これは初出文献での shō と *Times* ¹⁸ Sept. (1972) での sho とが併用されている。

Workshop Receipt Ser. ^{III 38/2} (1884) を初出文献とする語は、mokum (木目) である。これは初出文献では moku-me であるが、*Krupp & Wildberger's Metallic Alloys* ³²² では mokum となり定着している。

Theory Jap. Flower Arrangem. (1889) を初出文献とする語は、rikka (立花) である。これは初出文献での rikkwa、*Jap. Lantern* (1965) での rikka とが併用されている。

Dairy News (1890) を初出文献とする語は、kakemono (掛け物) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Seas & Lands (1890) を初出文献とする語は、shogunite (将軍派) である。この用例掲載は初出文献のみである。

Contempt Rev. Dec. (1891) を初出文献とする語は、geisha (芸者) である。これは初出文献では geisha、また、*Critic* (1892) では gei-sha であるが、HALL & GREENBANK (title) (1896) 以降 geisha となり定着しているが、また、複合語 geisha girl の併用も見られる。

Syd. Soc. Lex. (1891) を初出文献とする語は、moxocausis (灸) である。これは O E D には用例が掲載されてない。

Japanese Girls & Women (1891) を初出文献とする語は、soroban (十露盤、算盤) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Japonica (1892) を初出文献とする語は、nori (海苔) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Lett. of Travel (1892) を初出文献とする語は、sayonara (〔動〕 さようならを言う) である。この用例掲載は初出文献のみである。

Adzuma (1893) を初出文献とする語は、banzai (万歳) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Garden & Forest (1893) を初出文献とする語は、kudzu (葛) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Jap. Interior (1893) を初出文献とする語は、sushi (寿司) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Music & Musical Instruments of Japan (1893) を初出文献とする語は、shakuhachi (尺八) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Outlines Mahayana (1893) を初出文献とする語は、Soto (曹洞宗) である。これは初出文献では Sôtô であるが、*Stud. in Japanese Buddhism* (1917) 以降 Soto となり定着している。

World's Parl. Relig. (1893) を初出文献とする語は、shintoism (神道) である。この用例掲載は初出文献のみである。

Spectator (1894) を初出文献とする語は、rickshaw man (人力車夫) である。これは初出文献での rickshawman、また *Yoshihara Episode* (c 1890) での rickshaw coolie、*N.Y. Rev. Bks.* (1977) での ricksha man とが併用されている。

Yng. Gentlw. (1894) を初出文献とする語は、kimonoed (〔形〕着物を着た) である。この用例掲載は初出文献のみである。

Geogr. Jrnl. (1895) を初出文献とする語は、habu (波布) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Jap. Wood Engr. (1895) を初出文献とする語は、baren (馬連) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Montgomery Ward (1895) を初出文献とする語は、habutai (羽二重) である。これは初出文献での habutai silk、また、*Encycl. Brit.* (1902) での habutaye、*Stud. Eng. Lit.* (1931) での habutae、*'Mercury' Dict. Textile Terms* (1950) での habutai とが併用されている。

My Japanese Wife (1895) を初出文献とする語は、geisha girl (芸者) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Relig. Japan (1895) を初出文献とする語は、shintoize (〔動〕神道化する) である。この用例

掲載は初出文献のみである。

Bamboo Garden (1896) を初出文献とする語は、metake (女竹) である。これは初出文献では métaké、または mé-take であるが、*F.A. McClure Bamboos* (1966) 以降 metake となり定着している。

Far East 20 Dec. (1896) を初出文献とする語は、soba (蕎麦) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおりである。

Jrnl. Amer. Med. Assoc. (1896) を初出文献とする語は、Taka-diastase (タカジアスターゼ) である。これは初出文献のとおり taka-diastase が優勢であるが、*Ann. Rev. Microbiol.* xxx. 8 (1976) では takadiastase という形もある。

Kokoro: hints and echoes of Japanese inner life (1896) を初出文献とする語は、kamikaze (〔名〕神風) である。これは初出文献では kamikaze であるが、*Japan* (1970) での kamikaze とが併用されている。

Feudal & Modern Japan (1897) を初出文献とする語は、eta (えた) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおりである。

Publ. Georgia Dept. Agric. (1897) を初出文献とする語は、soya bean (大豆) である。これは初出文献では soja bean であるが、*Chamber's Jrnl.* Mar. 200/2 (1905) 以降 soya bean となり定着している。

Eng. Hist. Rev. (1899) を初出文献とする語は、mikadoate (天皇制) である。この用例掲載は初出文献のみである。

In Ghostly Japan (1899) を初出文献とする語は、Bon (お盆) である。これは初出文献での Bon と *Jap. Lantern* (1965) での O-Bon とが併用されている。

つぎの bugaku (舞楽), Nichiren (日蓮宗), taiko (太鼓), wakizashi (脇差) の4語は O E D には収録がないため、S O E D に表示された年代 (L19) に準拠した。

また、Kokka (国家神道) と Shuha (教派神道) とは明治以降、軍国主義、国家主義と結びついて推進された事実から (広辞苑) L19 に含めたのである。

20世紀初期 (以下 E20 とする) において欧米の文献に採り上げられたのは、Akita (秋田犬),

aucuba mosaic (アオキモザイク病), baiu (梅雨), banzai party (万歳組), black belt (黒帯), bunraku (文楽), daisho (大小), dotaku (銅鐸), haniwa (埴輪), ikebana (生け花), Ishihara (石原忍、～の), Ishihara test (石原色盲検査), ishikawaite (石川石), jujitsian (柔術家), ju-jitsu (〔動〕柔術によって勝つ), Kamakura (鎌倉、鎌倉時代の), kanji (漢字), katsura (鬘), katuramono (鬘物), kendo (剣道), kenjutsu (剣術), kesagatame (袈裟固め), keyaki (榎), kimono (着物、～の), kimono sleeve (キモノスリーブ), kojic acid (麹酸), Kurume (久留米躑躅), maiko (舞妓), Meiji (明治時代の), Mikado pheasant (ミカドキジ), mondo¹ (禅の問答), moxibustion (灸の療法), mura (村), muraji (連), Nara (奈良、～の、～時代の), narikin (成金), Nipponian (日本の、～人の), Nipponism (日本主義), Nippon vellum (模造小牛皮紙), nogaku (能楽), omi¹ (臣), omuraji (大連), onnagata (女形), orihon (折り本), protoanemonin (プロトアネモン), randori (乱取り、乱取りを行う), rikishi (力士), romaji (ローマ字), rotenone (ロテノン), sentoku (宣徳銅器), sewamono (世話物), Shibayama (芝山象眼^{そうがん}), Shiga bacillus (赤痢菌), shimada (島田蠶^{まけ}), Shimose (下瀬火薬), Shimosite (下瀬火薬), shodan (初段), shosagoto (所作事), Showa (昭和時代), shubunkin (朱文金), sodoku (鼠咬症), soya bean oil (大豆油), soya flour (大豆粉), soya oil (大豆油), soy frame (醤油立て), suiboku (水墨画), suiseki (水石), sukiya (数奇屋風), sukiyaki (すき焼き), sumi (墨), sutemi-waza (捨身技), Taisho (大正時代), takamakie (高蒔絵^{ゆゑ}), temmoku glaze (天目彩), tempura (天麩羅), terakoya (寺子屋), tomoe-nage (巴投), tsurikomi (釣り込み腰), tsutsugamushi (ツツガムシ病), uchimata (内股), udon (うどん), uki (浮き), ura-nage (うら投), urushiol (ウルシオール), wasabi (山葵), Ya-yoi (弥生式の), Yezo spruce (蝦夷松), yondan (四段), yugen (幽玄), yūzen (友禅染), Zen Buddhism (禅[宗]), Zen Buddhist (禅の信者), Zen master (禅師) の93語である。

E20における93語のうち、Mrs.R.Watts *Fine Art Jujitsu* (1906) を初出文献とするのは、sutemi-waza (捨身技), tomoe-nage (巴投), tsurikomi (釣り込み腰), uchimata (内股), ukigoshi (浮き腰), ~-otoshi (浮き落とし), ura-nage (うら投) といった武道(柔道)に関する6語である。このうち、sutemi-waza は初出文献で同形、E.J.HARRISON *Judo* (1952) では sutemiwaza であるが、L.FREDRIC *Encycl. Asian Civilizations* では sutemi-waza となり定着している。tomoe-nage は初出文献では tomoe-nage、*Judo* (Budokwai) (1948) 以降 tomoe-nage となり定着している。tsurikomi は初出文献での tsurikomigoshi と G.KOIZUMI *Twelve Judo Throws* (1948) での tsurikomiashi とが併用されている。uchimata は初出文献での uchimata と TAKAGI & SHARP *Techniques Judo* (1957) での uchi-mata とが併用されている。uki は ukigatame といった風に用いられている。その初出文献 (Xi.116) での ukiotoshi と同じ箇所 (Xi.125) での ukigoshi と M.FELDENKRAIS *Judo* (1941) と E.J.HARRISON *Judo on Ground* (1954) での ukigatame とが併用されている。ura-nage は初出文献では uranage であるが、M.FELDENKRAIS *Judo* (1942) 以降 ura-nage となり定着している。

Encycl. Brit. (1902-29) を初出文献とするのは、sentoku (宣徳銅器), sewamono (世話物), shosagoto (所作事), suiseki (水石), yūzen (友禅染) の5語である。このうち sentoku, sewamono, shosagoto の三者は初出文献では同形で、ともに他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。suiseki は初出文献 (1929) では sui-seki であるが、*Islander* (1972) 以降 suiseki となり定着している。yūzen は初出文献 (1902) での yuzen と同文献 (1911) での yūzen とが併用されている。

E.J.HARRISON *Fighting Spirit of Japan* (1913) を初出文献とするのは、黒帯の翻訳語 black belt, randori (乱取り), shodan (初段), yondan (四段) といった武道(柔道)に関する4語である。このうち black belt, randori, shodan の三者は初出文献では同形で、ともに他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。yondan は初出文献では同形で、REAY &

HOBBS *Judo Manual* (1979) では shidan であるが、*Best of Karate* (1981) 以降 yondan となり定着している。

F.BRINKLEY *Japan* (1901) を初出文献とするのは、muraji (連), omi¹ (臣), omuraji (大連) といった身分・階級に関する 3 語である。muraji は初出文献では同形で、他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。omi¹ は初出文献での o-mi と G.B.SAMSOM *Japan* (1931) での omi とが併用されている。omuraji は初出文献での o-muraji と G.B.SAMSOM *Japan* (1931) での ō-muraji とが併用されている。

同じ著者の *Oriental Series: Japan* (1901) を初出文献とするのは、ikebana (生け花), Kamakura (鎌倉時代の), Nara (奈良の、～時代の) の 3 語である。前者は初出文献では ike-bana であるが、A.KOEHN *Art Jap. Flower Arrangement* (1934) 以降 ikebana となり定着している。Kamakura と Nara は初出文献では同形で、他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Chem. Abstr. (1908-24) を初出文献とするのは、和製英語 protoanemonin (プロトアネモン) と rotenone (ロテノン) と urushiol (ウルシオール) といった化学に関する 3 語である。protoanemonin と urushiol は初出文献では同形で、他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。rotenone は初出文献では rotenon であるが、同文献 (1925) 以降 rotenone となり定着している。

Japan Advertiser (1920) を初出文献とするのは、suki-yaki (すき焼き), tempura (天麩羅), udon (うどん) といった食物 (料理) に関する 3 語である。tempura と udon は初出文献では同形で、他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。sukiyaki は初出文献では suki-yaki であるが、H.MEARS *Year of Wild Boar* (1943) 以降 sukiyaki となり定着している。

Eastern Buddhist (1921) を初出文献とするのは、複合語の Zen Buddhism (禅宗), Zen master (禅師), Zen Buddhist (禅の信者) といった宗教 (仏教) に関する 3 語である。三者とも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Daily Chron. (1903-9) を初出文献とするのは、kimono (〔形〕. 着物の) と Nipponian (日本の、～人の) の 2 語である。前者には kimona (例、複合語の kimona sleeve) という異形がしばしば見られるが、kimomo の方が優勢である。後者 (Nipponian) の用例掲載は初出文献のみである。

N.G.MUNRO *Prehistoric Japan* (1911) を初出文献とするのは、dotaku (銅鐸) と katsura (鬘) の 2 語である。前者は初出文献では同形である。H.BORTON *Japan* (1951) での dōtaku と A IKEN & HIGUCHI *Prehist. of Japan* (1951) での dotaku とが併用されている。後者は初出文献では同形で、他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

S.K.UYENISHI *Text-bk. Ju-Jutsu* (1921) を初出文献とするのは、kendo (剣道) と kenjutsu (剣術) といった武道 (剣道) に関する 2 語である。前者は初出文献での kendo と *Official Guide to Japan* (1933) での kendō とが併用されている。後者は初出文献での ken-jutsu と *Official Guide to Japan* での kenjutsu とが併用されている。

Amer. Jrnl. Physiol. Optics. (1924) を初出文献とするのは、Ishihara (石原忍、～の) と複合語の Ishihara test (石原色盲検査) といった医学 (眼科) に関する 2 語である。両者とも初出文献では同形で、他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Philad. Med. Jrnl. (1900) を初出文献とするのは、複合語の shiga bacillus (赤痢菌) である。初出文献では shiga bacilli (複数) であるが、*Ann. Rev. Microbiol.* (1947) では shiga bacillus となり定着している。

C.LOWE tr. *A von Siebold's Japan's Accession to Comity of Nations* (1901) を初出文献とする語は、Meiji (明治時代の) である。これは初出文献での Meiji Era、また J.A.SCHERER *Three Meiji Leaders* (1936) での Meiji government とが用いられている。

O.EDWARDS *Jap. Plays & Play Fellows* (1901) を初出文献とする語は onnagata (女形) で他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Bull. Bureau of Plant Industry (U.S. Dept.

Agric.) (1903) を初出文献とする語は、wasabi (山葵) で、他に異形がなく初出文献に掲載のとおりに定着している。

R.LANGE *Text-bk. Colloq. Japanese* (1903) を初出文献とする語は、romaji (ローマ字) である。これは初出文献での romaji と *Jrnl. Amer. Oriental Soc.* (1939) での rōmazi とが併用されている。

R.J.FARRER *Garden of Asia* (1904) を初出文献とする語は、maiko (舞妓・舞子) である。同文献 (xii.iii) では maiko-geisha であるが、同文献 (xii.iii) 以降 maiko となり定着している。

Amer. Inventor (1904) を初出文献とする語は、Shimose (下瀬火薬) で、他に異形がなく初出文献に掲載のとおりに定着している。

D.SLADEN *Playing Game* (1905) を初出文献とする語は jujitsu ([動] 柔術によって勝つ) である。これは初出文献での jujitsu と *Observer* (1928) での ju-jitsu とが併用されている。

HANCOCK & HIGASHI *Compl. Kano Jiu-Jitsu* (1905) を初出文献とする語は、jiu-jitsian (柔術家) で、この用例掲載は初出文献のみである。

N.G.MUNRO in *Trans. Asiatic Soc. Japan* (1906) を初出文献とする語は、Yayoi (弥生式、～の) で、他に異形がなく初出文献に掲載のとおりに定着している。

Index Medicus (1906) を初出文献とする語は、Tsutsugamushi (ツツガムシ病) で、他に異形がなく初出文献に掲載のとおりに定着している。

ELWES & HENRY *Trees Gr. Brit. & Ireland* (1906) を初出文献とするのは複合語の Yezo spruce (蝦夷松) で、この用例掲載は初出文献のみである。

C.DAVENPORT *Book* (1907) を初出文献とする語は orihon (折り本) で、他に異形がなく初出文献に掲載のとおりに定着している。

Yesterday's Shopping (1907) を初出文献とする語は keyaki (欒) である。これは初出文献では kiaki であるが、A.L.HOWARD *Man. Timbers of World* (1948) 以降に keyaki に変更しているのは音声上妥当だと思われる。

D.KIKUCHI *Japanese Education* (1909) を初出文献とする語は terakoya (寺子屋) である。こ

れは初出文献では同形で、*Encycl. Brit.* (1911) では tera-koya であるが、D.T.鈴木 *Zen Buddhism & its Influence on Japanese Culture* (1938) 以降 terakoya となり定着している。

Bull. Central Meteor. Observ. Japan (1910) を初出文献とする語は bai-u (梅雨、～の) である。これは W.KENDREW *Climates of Cont.* (1922) 以降も bai-u で定着している。

E.PLAYFAIR tr. *Neuburger's Hist. Med.* (1910) を初出文献とするのは和製英語の moxibustion (灸療法) で、他に異形がなく初出文献に掲載のとおりに定着している。

JUNKICHI INOUE *Home Life in Tokyo* (1910) を初出文献とする語は shimada (島田髻、～の) で、他に異形がなく初出文献に掲載のとおりに定着している。

Daily Colonist (1911) を初出文献とするのは複合語の soya bean oil (大豆油) である。この用例掲載は初出文献のみである。

H.P.BOWIE *Law Jap. Painting* (1911) を初出文献とする語は sumi (墨) で、他に異形がなく初出文献に掲載のとおりに定着している。

F.BRADBURY *Hist. Old Sheffield Plate* (1912) を初出文献とするのは soy frame (醤油立て) である。これは初出文献での soy frame と E.W ENHAM *Domestic Silver* (1931) での soy-frame とが併用されているが、前者の方が優勢である。

E.F.FENOLLOSA *Epochs Chinese & Jap. Art* (1912) を初出文献とする語は suiboku (水墨画) で、他に異形がなく初出文献に掲載のとおりに定着している。

Jrnl. Chem. Soc. (1913) を初出文献とするのは複合語の kojic acid (麴酸) で、他に異形がなく初出文献に掲載のとおりに定着している。

Hasting's Encycl. Relig. & Ethics (1914) を初出文献とする語は、Nipponism (日本主義) である。この用例掲載も初出文献のみである。

A.MARSHALL *Explosives* (1915) を初出文献とする語は、Shimosite (下瀬火薬) である。この用例掲載も初出文献のみである。

JOLY & TOMITA *Jap. Art & Handicraft* (1916) を初出文献とする語は、nogaku (能楽) である。これは初出文献での nô gaku と B.L. SUZUKI *Zen Buddhism & its Influence on Jap. Culture*

(1938) での *nōgaku* と W.P. MALM *Jap. Music* (1959) での *nogaku* とが併用されている。

FENOLLOSA & POUND *Noh* (1916) を初出文献とする語は *katsuramono* (鬘物) である。これは初出文献では *kazura* or *onnamono* である。B.L. SUZUKI *Nōgaku* (1932) での *katsuramono* と *Intro. Classic Jap. Lit.* (1948) での *kazuramono* とが併用されている。

W.T. INNES *Goldfish Varieties* (1917) を初出文献とする語は *shubunkin* (朱文金) で、他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

H.A. GARDNER *Paint Researches* (1917) を初出文献とするのは複合語の *soy oil* (大豆油) で、他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Garden Mag. (1920) を初出文献とする語は、*Kurume* (複合語の *Kurume Azalea*) (久留米躑躅) である。これは初出文献での *Kurume Azalea* と *Jrnl. R. Hort. Soc.* (1949) での *Kurume* とが併用されている。

Glasgow Herald (1920) を初出文献とする語は *narikin* (成金) で、他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

B. KURE *Hist. Devel. Marionette Theatre Japan* (1920) を初出文献とする語は *bunraku* (文楽) で、他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

W.M. McGOVERN *Colloq. Japanese* (1920) を初出文献とする語は *kanji* (漢字) で、他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

A. WALEY *Nō Play of Japan* (1921) を初出文献とする語は、*yugen* (幽玄) である。これは初出文献での *yūgen* と *Times Lit. Suppl.* (1932) での *yugen* とが併用されている。

H.M. QUANJER *Pep. internat. Potato Conf.* (1922) を初出文献とするのは複合語の *aucuba mosaic* (アオキモザイク病) である。これは初出文献での *aucuba-mosaic* と *Nature* (1936) での *aucuba mosaic* とが併用されている。

Jrnl. Geo. Soc. Tokyo (1922) を初出文献とする語は *ishikawaite* (石川石) で、他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

C.W. BEEBE *Mongr. Pheasants* (1922) を初出文献とするのは複合語の *Mikado Pheasant* (ミ

カドキジ) である。この用例掲載は初出文献のみである。

J.W.R. SCOTT *Foundation of Japan* (1922) を初出文献とする語は *mura* (村) で、他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

H.C. GUNSAULUS *Japanese Sword-Mounts* (1923) を初出文献とする語は、*daisho* (大小) である。これは初出文献では *dai-sho* であるが、*Encycl. Brit.* (1957) 以降 *daisho* となり定着している。

Trans. Oriental Ceramics Soc. (1924) を初出文献とするのは複合語の *temmoku glaze* (天目彩) である。この用例掲載は初出文献のみである。

Brit. Weekly (1926) を初出文献とするのは複合語の *Nippon vellum* (模造小牛皮紙) で、他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Trans. Soc. Tropical Med. & Hygiene (1926) を初出文献とする語は *sodoku* (鼠咬症) で、他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

D.T. 鈴木 *Essay in Zen Buddhism* (1927) を初出文献とする語は *mondo*¹ (禅の問答) で、他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Ann. Reg. (1927) を初出文献とする語は *Showa* (昭和時代) である。これは初出文献では *Shōwa* であるが、*Encycl. Brit.* (1957) 以降 *Showa* となり定着している。

F.M. JONAS *Netsuké* (1928) を初出文献とする語は *Shibayama* (芝山象眼) で、他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

F.T. BARTON *Kennel Encycl.* (1928) を初出文献とする語は *Akita* (秋田犬) で、他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

F. BOWEN *Sea Slang* (1929) を初出文献とするのは複合語の *banzai party* (万歳組) である。これは初出文献では同形であるが、*Limits & Renewals* (1932) では *banzai-party* である。

Times Lit. Suppl. (1930) を初出文献とするのは複合語の *soya flour* (大豆粉) で、他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

G.B. SANSOM *Japan* (1931) を初出文献とする語は *haniwa* (埴輪) で、他に異形がなく初出文献

に掲載のとおり定着している。

E.J.HARRISON *Art of Ju-Jitsu* (1932) を初出文献とする語は kesagatame (柔道の袈裟固め) である。これは初出文献での kesagatame と TAKAGAKI & SHARP *Techniques Judo* (1970) での kesa gatame と P. & K.BUTLER *Judo & Self-Defence for Women & Girls* (1968) での kesagatame とが併用されている。

つぎの rikishi (力士), sukiya (数奇屋風), Taisho (大正時代), takamakie (高蒔絵) の4語は、OEDでは採用されなかった代わり、SOEDにおいて採用されたものである。したがって、SOEDの年代表示(E20)に準拠した。残りの複合語の kimono sleeve (キモノ・スリーブ) は児玉『アメリカのジャポニズム』⁽¹⁷⁾に、同じく複合語の Wooden kimono (棺桶) も RHHDAS ならびに *The Japanese Contribution to English Language*⁽¹⁸⁾ とに準拠した。

わが国は第二次世界大戦中英語を、敵国の言語であるため排斥した。したがって、旧制の中等学校、高等学校における英語の授業は廃止され、英米系の新聞雑誌も入手できなくなったばかりか、真珠湾攻撃に参加した特殊潜航艇に関する記事で、その長さの表記が日本式でなくメートルで記したことから、当時の官憲から出頭を命じられたうえに罰金を課せられるような有様であった。⁽¹⁹⁾

一方、相手国アメリカでは開戦と同時に日本研究が奨励され、日本語学習も盛んとなり、『研究社新英和大辞典』(1939)などの海賊版が出回るほどであった。⁽²⁰⁾ また、日本研究の成果の一つとされる R. ベネディクト (B.Benedict) 著の『菊と刀』も忘れてはならない。

敗戦後アメリカ軍が進駐すると、日本では英語が大いにもてはやされ、英会話が流行した。その勢いは明治初期(L19)の英語氾濫時代に劣らぬほどの英語ブームとなったのである。また、第二次大戦後アメリカが平和な経済国家として再出発した日本に強い関心を抱くようになったことが、日本文化、ひいては日本語の流出を盛んにした一因であろう。

20世紀中期(以下M20と記す)において欧米の文献に採り上げられたのは aikido (合気道), ama (海女), baka bomb (神風飛行機), banzai (向こう見ずの、自殺的の), banzai attack (決

死の突撃), banzai charge (決死の突撃), basho (相撲の場所), black mist (黒い霧), bonsai (盆栽), bullet train (弾丸列車、新幹線), Chediak-Higashi syndrome (チェディアック・東症候群), dan (段), dashi (鰹節のだし), dojo¹ (道場), emakimono (絵巻物), Esakidiode (エサキダイオード), fugu (河豚), gagaku (雅楽), gaijin (外人), geisha house (芸者置屋), gi (着: 柔道着の略称), Godzilla (ゴジラ), haraigoshi (払い腰), Hashimoto's goitre (橋本甲状腺腫), hibakusha (被爆者), Hirohito (裕仁親王), Hiroshima (広島、~の), honcho (リーダー、監督、指揮する), hooch (草葺き小屋), ibotenic (イボテニク酸の), ibotenic acid (イソキサゾール), Ikunolite (生野石), ippon (柔道的一本), Ishihara-blind (色盲の), Ishihara method (石原色盲検査法), Ishihara plate (石原色盲検査表), itaiitai (イタイイタイ病、水俣病), Iwo Jima (硫黄島), janken (じゃんけん), jigotai (柔道の自護体), johachidolite (上八洞石), Jomon (縄文式の), judogi (柔道着), judoist (柔道家), judoka (柔道家), kainic (カイニン酸の), kainic acid (カイニン酸), kamikaze (神風の、向こう見ずの、自殺的な), kanamycin (カナマイシン), karate (空手), karate-chop (空手チョップ、~する), karateka (空手家), kata (柔道などの型), Kawasaki disease (川崎病), Kempeitai (憲兵隊), Kikuchi (菊池正士の), koan (禅の公案), kobeite (河辺石), kokeshi (こけし), kuzushi (柔道のくずし), kyu (柔道の級), LDP (自由民主党の英語名の略称), makiwara (空手の巻藁), mamasan (バーのマダム), mikan (蜜柑), Mikimoto pearl (御木本真珠), Minamata disease (水俣病), mingei (民芸), mompei (もんぺ), moose (米国軍人の愛人), Nabeshima porcelain (鍋島焼), Nanga (南画の), nembutsu (念仏), nightingale floor (鶯張りの床), Ningyoite (人形石), ningyo-joruri (人形浄瑠璃), ninja (忍者), ninjitsu (忍術), Nip (蔑称: 日本人), Nisei (二世), ofuro (お風呂), o-goshi (大腰), Okazaki fragment (岡崎フラグメント), Okinawan (沖縄人・語、~の), on (恩), onsen (温泉), origami (折紙), osaekomi (抑え込み),

oshibori (おしぼり), o-sotogari (大外刈り),
 oyama (女形), pachinko (パチンコ),
 parametron (パラメトロン), pompom (パンパン),
 rickshaw-cycle (輪タク), rishitin (テルペン),
 Roshi (老師), rumaki (鶏のレーバとクワイをベーコンで包みあぶった前菜), ryokan (旅館),
 Ryukyuan (琉球人・語の), sabi (寂),
 sake cup (猪口), samurai minded (侍精神を持つ),
 sanpaku (三白眼), Sansei (三世), seiza (正座),
 Sendai (仙台ウィルス), Sendai virus (仙台ウィルス),
 senryu (川柳), seoi nage (背負い投げ),
 shiatsu (指圧), shibui (渋い、渋味),
 shigella (赤痢菌), shigellosis (細菌性赤痢),
 shihan (師範), shime-waza (締め技),
 Shinkansen (新幹線), shochu (焼酎), Shotokan (松濤館),
 shunga (春画), shunto (春闘: 春季闘争の略称),
 shuto (手刀), skosh (少し), sobaya (蕎麦屋),
 sogo shosha (総合商社), Sohyo (総評: 日本労働組合総評議会の略称),
 Soka Gakkai (創価学会), sosaku hanga (創作版画),
 soya burger (大豆ハンバガー), soya link (大豆ソーセージ),
 soya meal (大豆粕), soybean flour (大豆粉),
 soybean oil (大豆油), soybean sauce (醤油),
 soybean soup (味噌汁), soy bottle (醤油びん),
 soy jam (溜り醤油), sudoite (緑泥石),
 sumi-e (墨絵), sumi-gaeshi (柔道の隅返し),
 sumo wrestling (相撲), Suntory (サントリーウィスキー),
 Suribachi (搦鉢山), Suzuki (鈴木鎮一: 昭和初期のバイオリン奏者・教育家),
 suzuribako (硯箱), tachi (太刀), tai-otoshi (体落とし),
 tai-sabaki (体裁き), Takayasu's disease (高安病),
 tatami mat (畳), tatami matting (畳), tempura restaurant (天麩羅屋),
 tenko (点呼), teriyaki (照り焼き),
 todorokite (轟石), Tojo (日本軍・兵<陸軍大将・首相東条英機),
 Tokyo Rose (東京ローズ), Tomonaga-Schwinger theory (朝永・シュレディンガー理論),
 tonarigumi (隣組), tori (取り), Tosa (土佐犬),
 tsugi ashi (柔道の継ぎ足), tsukuri (柔道のつくり),
 tycoonery (大名の行動・身分), tycooness (女大名),
 tycoonish (大君らしい), tycoonship (大君の地位),
 ude-garami (腕がらみ), ude-gatame (腕固め),
 uke (受け: 柔道の受けになる相手),

ukemi (受け身), wabi (侘), waka (和歌), wakame (若布),
 waza-ari (技あり), Yagi (八木アンテナ), Yagi aerial (八木アンテナ),
 Yagi antenna (八木アンテナ), yakitori (焼き鳥),
 yakuza (やくざ), Yamaguchi-gumi (山口組), Yamato-damashii (大和魂),
 Yeddo crepe (江戸クレープ: 厚手の柔綿布), Yeddo spruce (蝦夷松),
 yoko-shiho-gatame (横四方固め), yokozuna (横綱),
 yugawaralite (湯河原沸石), Yukawa (湯川秀樹),
 Yukawa force (湯川力), Yukawa meson (湯川中間子),
 Yukawa particle (湯川素粒子), Yukawa potential (湯川ポテンシャル),
 yusho (カネミ油症), zaibatsu (財閥), zaikai (財界),
 zendo (禅堂), Zengakuren (全学連: 全日本学生自治会総連合の略称) の197語である。

この197語のうち、M.FELDENKRAIS *Judo* (1941) を初出文献とするのは dan (段), haraigoshi (払い腰), o-sotogari (大外刈り), sumi-gaeshi (隅返し), tsukuri (つくり), yoko-shiho-gatame (横四方固め) といった武道(柔道)に関する6語である。このうち dan と tsukuri には他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。haraigoshi は初出文献での harai goshi と TAKAGAKI & SHARP *Techniques of Judo* (1957) での harai-goshi とが併用されている。o-sotogari は初出文献での o-soto-gari と E.J.HARRISON tr.H.Aida's *Kodokan Judo* (1956) での osotogari と A.P.HARRINGTON *Judo Guide to Black Belt* (1970) での o-sotogari とが併用されている。sumi-gaeshi は初出文献での sumi-gaeshi と E.J.HARRISON *Judo* (1952) での sumigaeshi とが併用されている。yoko-shiho-gatame は初出文献での yoko-shiho-gatame と E.J.HARRISON *Judo* (1950) での yokoshihogatame とが併用されている。

J.BERTRAM *Shadow of War* (1947) を初出文献とするのは複合語の geisha-house (芸者置屋), honcho (監督、リーダー、指揮する), kempeitai (憲兵隊), mikan (蜜柑), 複合語の tatami mat (畳), tenko (点呼) の6語である。このうち geisha house は初出文献では geisha-house である。この用例掲載は初出文献のみである。honcho, kempeitai, mikan, tatami mat, tenko には他

に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

E.DOMINY *Teach yourself Judo* (1954) を初出文献とするのは judogi (柔道着), kata (型), o-goshi (大腰), shihan (師範), shime waza (締め技), ude garami (腕がらみ) といった武道(柔道)に関する6語である。このうち judogi, kata, shihan には他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。o-goshi は初出文献での ogoshi と *Techniques Judo* (1957) での o-goshi とが併用されている。shime waza は初出文献での同形と、K.TOMIKI *Judo* (1956) での shime-waza と *Judo (know the Game Series)* (1957) での shimewaza とが併用されている。ude-garami は初出文献での udegarami と G.KOIZUMI *My Study of Judo* (1960) での ude-garami とが併用されている。

New Scientist (1962) を初出文献とするのは ibotenic (イボテニック酸の), 複合語の ibotenic acid (イソキサゾール), karateka (空手家), 複合語の sumo wrestling (相撲) の4語である。この4語とも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

E.J.HARRISON *Judo* (1950) を初出文献とするのは jigotai (自護体), kuzushi (くずし), taiotoshi (体落とし), tsugi ashi (継ぎ足) といった武道(柔道)に関する4語である。このうち jigotai は初出文献での jigotai と *Techniques Judo* (1957) での jigo-tai とが併用されている。kuzushi には他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。tai-otoshi は初出文献での taiotoshi と LEGGETT & WATANABE (title) *Championship Judo* (1964) での tai-otoshi と D.S.TARBROOK *Judo* (1978) での tai-o-toshi とが併用されている。tsugi ashi は初出文献での tsugiashi と K.KUDO *Dynamic Judo Throw Techniques* (1967) での tsugi-ashi とが併用されている。

Times (1938-67) を初出文献とするのは1938年の samurai-minded (侍精神を持つ), 1956年の tycoonery (大名の行動、身分), 1962年の tatami matting (畳), 1967年の suzuribako (硯箱) の4語である。このうち複合語の samurai-minded と tatami matting の用例掲

載は初出文献のみである。suzuribako, tycoonery とともに他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

K.TOMIKI *Judo* (1950) を初出文献とするのは aikido (合気道), seiza (正座), uke (受けになる相手) といった武道に関する3語である。この三者とも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

I.FLEMING *You only live Twice* (1964) を初出文献とするのは gaijin (外人), ninja (忍者), ninjutsu (忍術) の3語である。このうち gaijin, ninja とともに他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。ninjutsu は初出文献での ninjutsu と Age (Melbourne) (1974) での ninjitsu とが併用されている。

R.BENEDICT *Chrysanthemum & Sword* (1946) を初出文献とするのは koan (公案), on (恩), tonarigumi (隣組) の3語である。このうち koan, on とともに他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。tonarigumi は初出文献での tonari gumi と W.H.SPROTT *Human Group* (1958) での tonari-gumi とが併用されている。

R.KIRKBRIDE *Tamiko* (1959) を初出文献とするのは kokeshi (こけし), oshibori (おしぼり), Suntory (サントリーウィスキー) の3語である。このうち kokeshi は初出文献での kokeshi doll と J.KIRKUP *Japan behind Fan* (1970) での kokeshi とが併用されている。oshibori は初出文献では同形であり、*New Yorker* (1963) では o-shibori であるが、*Guardian* (1970) では oshibori となり定着している。Suntory⁽²¹⁾ は初出文献での Suntory と J.H.ROBERTS *February Plan* (1967) での Suntori とが併用されているが、前者の方が優勢である。

E.J.HARRISON *Art of Ju-Jitsu* (1932) を初出文献とするのは osaekomi waza (抑え込み), seoinage (背負い投) といった武道(柔道)に関する2語である。前者は初出文献(V.64)での osaekomiwaza と同文献(65)での osaekomi-waza とが併用されている。後者は初出文献では seoinage であるが、*Teach yourself Judo* (1954) での seoi nage と *Judo* (1966) での seoi-nage とが併用されている。

Amer. Jrnl. Physiol. (1944) を初出文献とす

るのは複合語の Ishihara blind (色盲) と Ishihara method (石原色盲検査法) の医学 (眼科) に関する 2 語である。両者とも用例掲載は初出文献のみである。

Chamber's Encycl. (1950) を初出文献とするのは judoist (柔道家), ningyo-jōruri (人形浄瑠璃) の 2 語である。前者には他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。後者は初出文献では jōruri (puppet play), また E.ERNST *Three Jap. Plays* (1959) では複合語の puppet jōruri が用いられている。

Time (1942-52) を初出文献とするのは 1942 年の Nip (蔑称: 日本人), 1952 年の judoka (柔道家) の 2 語である。両者とも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

S.MURAKAMI et al. in *Pharmaceutical Soc. Japan* (1954) を初出文献とするのは kainic (カイニン酸の), kainic acid (カイニン酸) といった化学に関する 2 語である。両者とも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

E.J.HARRISON *Man. Karate* (1959) を初出文献とするのは makiwara (巻藁), shuto (手刀) といった武道 (空手) に関する 2 語である。また、両者とも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

J.MORRIS *Phoenix Cup* (1947) を初出文献とするのは mompei (もんぺ), shibui (渋い、渋味) の 2 語である。前者は初出文献での mompei と W.SWAAN *Jap. Lantern* (1965) での mompe とが併用されている。後者には他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

T.MUTO et al in *Amer. Mineralogist* (1959) を初出文献とするのは ningyoite (人形石), sudoite (緑泥石) といった鉱物に関する 2 語である。両者とも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Encounter (1953) を初出文献とするのは pachinko (パチンコ), zendo (禅堂) の 2 語である。前者は初出文献での pachinko と *Guardian* (1971) での pachinco とが併用されている。後者には他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Guardian (1963) を初出文献とするのは oyama (女形), tycooness (女大君) の 2 語である。

前者には他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。後者の用例掲載は初出文献のみである。

Amer. Speech (1950) を初出文献とするのは sansei (三世), skosh (少し) の 2 語である。前者には異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。後者は初出文献では sukoshi 'few, some' であるが、recorded by Prof.A.L.Hench, Univ.of Virginia (1959) 以降 skosh⁽²²⁾ となり定着している。

B.Y.CHAO *How to cook & eat in Chinese* (1956) を初出文献とするのは複合語の soybean sauce (醤油) と soy jam (溜り醤油) といった食物 (調味料) に関する 2 語である。両者とも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Newsweek (1964) を初出文献とするのは Suzuki (鈴木鎮一), yakuza (やくざ) の 2 語である。両者とも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

M.DOI *Art of Japanese Cookery* (1962) を初出文献とするのは teriyaki (照り焼き), yakitori (焼き鳥) といった食物 (料理) に関する 2 語である。前者は初出文献での teri-yaki と H.TANAKA *Pleasures of Japanese Cooking* (1963) での teriyaki とが併用されている。後者は初出文献での yaki-tori と *Japan behind Fan* (1970) での yakitori とが併用されている。

B.L.SUZUKI *Nogaku* (1932) を初出文献とするのは sabi (寂), waka (和歌) の 2 語である。前者には他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。後者は初出文献では waka、*Intro. Class Jap. Lit.* (1948) では複合語の waka poetry であるが、*Encycl. Brit.* (1968) 以降 waka となり定着している。

D. & E.T.RIESMAN *Conversations in Japan* (1967) を初出文献とするのは複合語の soybean soup (味噌汁) と tempura restaurant (天麩羅屋) の 2 語である。両者の用例掲載は初出文献のみである。

W.DALLIMORE in *F.J.Chittenden Connifers in Cultivation* (1932) を初出文献とするのは複合語の Yeddo spruce (蝦夷松) の 1 語である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着

している。

Discovery (1933) を初出文献とする語は onsen (温泉) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Physical Rev. (1934) を初出文献とする語は Kikuchi (菊池正士の) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Pacific Affairs (1934) を初出文献とするのは翻訳語の LDP (自由民主党の略称) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

D.T.鈴木 *Training of Zen Buddhist Monk* (1934) を初出文献とする語は Roshi (老師) である。これは初出文献での Rōshi と C.HUMPHREYS *Zen Buddhism* (1949) での Roshi とが併用されている。

また、同じ著者の *Essays in Zen* (1934) を初出文献とする語は wabi (侘) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

T.YOSHIMURA in *Jrnl. Faculty Sci. Hokkaido Univ. Ser.* (1934) を初出文献とする語は todorokite (轟石) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Arch. Surg. (1935) を初出文献とするのは複合語の Hashimoto's goitre (橋本甲状腺腫) である。これは初出文献での Hashimoto's struma と STEDMAN *Med. Dict.* (ed.13) (1936) での Hashimoto's disease と J.H.MEANS *Thyroid & its Dis.* (1937) での Hashimoto's goister と *Jrnl. Clin. Endocrinol* (1956) での Hashimoto's thyroiditis とが併用されている。

Cereal Chemistry (1935) を初出文献とするのは複合語の soybean flour (大豆粉) である。この用例掲載は初出文献のみである。

K.SUNAGA *Jap. Mus.* (1936) を初出文献とする語は gagaku (雅楽) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

E.K.VENABLES *Behind Smik in Real Japan* (1936) を初出文献とする語は janken (じゃんけん) である。これは初出文献での jan-ken-poh と *Japan (Jap. Net. Commission for Unesco)* (1964) での janken とが併用されている。

J.KANO *Judo (jujutsu)* (1937) を初出文献と

する語は kyu (級) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

R.L.HOBSON *Handbk. Pott. & Porc. Far East* (1937) を初出文献とするのは複合語の Nabeshima porcelain (鍋島焼) である。この用例掲載は初出文献のみである。

M.FROBISHER *Fund. Bacteriol* (1937) を初出文献とする語は shigella (赤痢菌) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Econ. Jrnl. (1937) を初出文献とする語は zaibatsu (財閥) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

T.KUNITOMO *Jap. Lit. since 1868* (1938) を初出文献とする語は senryu (川柳) である。これは初出文献では senryū であるが、*Japan:its Land, people & Culture* (1958) 以降 senryu となり定着している。

BUSH & KAGAMI *Japanalia* (1938) を初出文献とする語は shochu (焼酎) である。これは初出文献では shōchū であるが、*You only live Twice* (1964) 以降 shochu となり定着している。

A.A.HORVATH *Soybean Industry* (1938) を初出文献とするのは複合語の soybean oil (大豆油) である。この用例掲載は初出文献のみである。

D.T.鈴木 *Zen Buddhism & its Influence on Jap. Culture* (1938) を初出文献とする語は sumi-e (墨絵) である。これは初出文献での sumie と H.HAYWARD *Antique coll.* (1960) での sumi-ye と *Jap. Lantern* (1965) での sumi-e と G.MACBETH *King of Treason* (1981) での sumi-ee とが併用されている。

Nature (1938) を初出文献とするのは複合語の Yukawa particle (湯川素粒子) である。この用例掲載は初出文献のみである。

A.HANO *Sumo-Jap. Westling* (1940) を初出文献とする語は basho (相撲の場所) である。これは初出文献では basyo であるが、J.A.S ARGENT *Sumo* (1959) 以降 basho となり定着している。

P.LONGHURST *Jiu-Jitsu* (1942) を初出文献とする語は dojo² (道場) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

IWASE & SAITO in *Sci. Papers Inst. Physical &*

Chem. Res. (Tokyo) (1942) を初出文献とする語は johachidolite (上八洞石) である。これは初出文献での jōhachidōlite と *Amer. Mineralogist* (1968) での johachidolite とが併用されている。

C.Y^{ERKOW} *Mod. Judo* (1942) を初出文献とする語は ukemi (受け身) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

R.A.F. *Jrnl.* (1942) を初出文献とする語は Yamato damashii (大和魂) である。これは初出文献での yamato damashi と A.M^{URAKAMI} *Romanized Japanese* (1974) での yamato-damashii とが併用されている。

Sun (Sydney) in *Baker Austral. Lang.* (1942) を初出文献とする語は Tojo (日本軍・兵) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

S.M^{ENEFE} *Assignment: U.S.A* (1943) を初出文献とする語は Nisei (二世) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Gloss. Term Telecomm. (1943) を初出文献とするのは複合語の Yagi aerial (八木アンテナ) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Civil Affairs Handbk. : Ryukyu Islands (U.S.Navy Dept.) (1944) を初出文献とする語は Okinawan (沖縄人・語、～の) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

H^{ARDY} & W^{ATT} in *Jrnl. Amer. Med. Assoc.* (1944) を初出文献とする語は shigellosis (細菌性赤痢) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Coast to Coast (1945) を初出文献とする語は banzai (向こう見ずの、自殺的な) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

San Francisco News (1945) を初出文献とするのは複合語の banzai charge (決死の突撃) である。この用例掲載は初出文献のみである。

C.L.B.^{HUBBARD} *Observer's Bk. Dogs* (1945) を初出文献とする語は Tosa (土佐犬) である。これは初出文献での Tosa と G.^{BLACK} *You want*

to die, Jonny? (1966) での複合語の Tosa hound と D^{ANGERFIELD} & H^{OWELL} *Internat. Encycl. Dogs* (1971) での複合語の Tosa dog とが併用されている。

G.B.^{SANSOM} *Japan* (1946) を初出文献とする語は Jomon (縄文式の) である。これは初出文献では Jōmon であるが、*Encycl. Brit.* 以降 Jomon となり定着している。

Chem. & Engin News (1946) を初出文献とする語は kamikaze (神風の、向こう見ずの、自殺的の) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

J.^{HOMMA} *Japanese Sword* (1948) を初出文献とする語は tachi (太刀) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Proc. Cambr. Philos. Soc. (1948) を初出文献とするのは複合語の Yukawa potential (湯川ポテンシャル) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

S.^{FUJIKAKE} *Jap. Wood-Block Prints* (1949) を初出文献とする語は sosaku hanga (創作版画) である。これは初出文献では sōsaku hanga、O.^{STATLER} *Mod. Jap. Prints Pref.* (1956) では sosaku hanga であるが、J.A.^{MICHENER} *Mod. Jap. Print* (1968) 以降 sosaku hanga となり定着している。

L.H.^{CROCKETT} *Popcorn on Ginza* (1949) を初出文献とする語は mamasan (バーのマダム) である。これは初出文献での mama-san と G.M^{IKES} *East is East* (1958) での mamasan とが併用されている。

N.^{KOBAYASHI} (title) *Bonsai* (1950) を初出文献とする語は bonsai (盆栽) である。これは初出文献での bonsai と K^{OESTLER} *Lotus & Robot* (1960) での bon-sai とが併用されているが、bonsai の方が優勢である。

J.^{TAKUBO} et al. in *Jrnl. Geol. Soc. Japan* (1950) を初出文献とする語は kobeite (河辺石) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

V.J.^{CHAPMAN} *Sea weeds* (1950) を初出文献とする語は wakame (若布) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Austral. Jrnl. Sci. Res. (1950) を初出文献

とするのは Yagi(八木アンテナ)である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

San Francisco Examiner(1952)を初出文献とする語は hooch (東南アジアの草葺小屋)である。これは初出文献での hoochie と *Amer. Speech* (1960)での hootchie、同じ年の citing an Army weekly newspaper in Korea での hootch と *N.Y. Times* (1964)での hooch とが併用されている。

Amer. Heart Jnl. (1952)を初出文献とするのは複合語の Takayasu's disease (高安病)である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

SAKURAI & HAYASHI in *Sci. Pep. Yokohama Nat. Univ.* (1952)を初出文献とする語は Yugaralite (湯河原沸石)である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

E.S.COLBERT *Left Wing in Japanese Politics* (1952)を初出文献とする語は Zengakuren (全学連)である。これも他に異形がなく初出文献のとおり定着している。

T.SANO et al.in *Yokohama Med. Bull.*(1953)を初出文献とする語は Sendai(仙台ウイルス)である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Far Eastern Econ. Rev. (1953)を初出文献とする語は sohyo (総評)である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

POHL & KORNBLUTH *Space Merchant* (1953)を初出文献とする語は soya burger (大豆ハンバーガー)である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

F.HAAR *Mermaid of Japan* (1954)を初出文献とする語は ama (海女)である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

E.J.HARRISON *Judo on Ground* (1954)を初出文献とする語は ude-gatame (腕固め)である。これは初出文献での udegatame と *Techniques Judo* (1957)での ude-gatame とが併用されている。

同じ著者の *Fighting Spirit Japan* (1955)を初出文献とする語は karate (空手)である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着

している。

tr.Kawaishi's *My Method of Judo* (1955)を初出文献とする語は tori (柔道の取り)である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

R.EUNSON *Pearl King* (1956)を初出文献とするのは複合語の Mikimoto pearl (御木本真珠)である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

R.HARBIN *Paper Magic* (1956)を初出文献とする語は origami (折紙)である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

ETJ of Japan (1956)を初出文献とするのは和製英語の parametron (パラメトロン)である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

B.SWEET-ESCOTT *Baker Street Irregular* (1956)を初出文献とするのは複合語の soya link (大豆ソーセージ)である。この用例掲載は初出文献のみである。

Judo (1954)を初出文献とする語は waza-ari (技あり)と *Judo* ('Know the Game'Ser) (1957)を初出文献とする語は ippon (一本)である。両者とも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

H.UMEZAWA et al.in *jrnal. Pharmaceutical Soc. Japan* (1957)を初出文献とする語は kanamycin (カナマイシン)である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Acta Path. Jap. (1957)を初出文献とするのは複合語の Minamata disease (水俣病)である。これは初出文献では Minamata-disease であるが、*Sci. Amer.* (1971)以降 Minamata disease となり定着している。

A.THWAITE *Home Truths* (1957)を初出文献とするのは複合語の sake cup (猪口)である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Y.YASHIRO *2,000 Yrs. Jap. Art* (1958)を初出文献とする語は emakimono (絵巻物)である。これは初出文献での e-makimono と J.ROSEFIELD tr. *Noma's Art Japan* (1966)での emakimono とが併用されている。

M.L.WOLF *Dict. Painting* (1958)を初出文献

とする語は Nanga (南画、~の) である。これは初出文献では Nanga school、また *Oxf. Compan. Art* (1970) でも Nanga school と Nanga painting とが見られる。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

tr. K. Kota in Japan (Japanese Nat. Commission) (1958) を初出文献とする語は Ryukyuan (琉球語、~の・琉球人、~の) である。これは初出文献では Ryūkyūan であるが、S. SAKAMAKI (title) *Ryukyu* (1963) 以降 Ryukyuan となり定着している。

Ann. Rev. Microbiol. (1958) を初出文献とする語は Sendai virus (仙台ウイルス) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Japan (Unesco) (1958) を初出文献とする語は sobaya (蕎麦屋) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Jap. Christian Quarterly (1958) を初出文献とする語は Soka Gakkai (創価学会) である。これは初出文献では Soka Gakkai、*Asia Mag.* (1964) では Sokagakkai であるが、*Listener* (1964) 以降 Soka Gakkai となり定着している。

A.KATO in *Mineral Jrnl.* (1959) を初出文献とする語は ikunolite (生野石) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

S.SITWELL *Bridge of Brocade Sash* (1959) を初出文献とするのは「鶯張りの床」の翻訳語の nightingale floor である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

B.LEACH *Potter in Japan* (1960) を初出文献とする語は mingei (民芸) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

H.HAYWARD *Antique Coll.* (1960) を初出文献とするのは複合語の soy bottle (醤油びん) である。これは初出文献では soy or sauce bottle、*Canadian Antique Collector* (1970) でも soy bottle であり、他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

C.W.CUNNING et al. *Dict. Eng. Costume* (1960) を初出文献とするのは複合語の Yeddo crepe (江戸クレプ) である。この用例掲載は初出文献のみである。

E.PARKER *Secrets of Chinese Karate* (1963) を初出文献とする語は Shotokan (松濤館) である。これは初出文献では Shoto-kan であるが、*Karate Mag.* (1970) 以降 Shotokan となり定着している。

H.TANAKA *Pleasure Jap. Cooking* (1963) を初出文献とする語は dashi (鰹節のだし) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Maclean's Mag. (1963) を初出文献とする語は ryokan (旅館) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

N.Y.Herald Tribune (1963) を初出文献とする語は sanpaku (三白眼) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

BUSH & KAGAMI *Japanalia* (1963) を初出文献とする語は shochu (焼酎) である。これは初出文献では shōchū であるが、*You only live Twice* (1964) 以降 shochu となり定着している。

New Society (1964) を初出文献とする語は shunga (春画) である。これは初出文献での shunga と *Oxf. Compan. Art* (1970) での shun-ga とが併用されている。

R.WARD *Penguin Bk. Austral. Ballads* (1964) を初出文献とする語は tycoonship (大君の地位) である。この用例掲載は初出文献のみである。

Mainichi Daily News (1964) を初出文献とする語は Yamaguchi-gumi (山口組) である。これは初出文献での Yamaguchi-Gumi と W.L. AMES *Police & Community in Japan* (1981) での Yamaguchigumi とが併用されている。

Listener (1964) を初出文献とするのは複合語の Yukawa meson (湯川中間子) である。この用例掲載は初出文献のみである。

R.CARRIER *Cook bk.* (1965) を初出文献とする語は rumaki (鶏のレーバとクワイをベーコンで包みあぶった前菜) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

R.ERSKINE *Passion Flower in Business* (1965) を初出文献とする語は tycoonish (大君らしい) である。この用例掲載は初出文献のみである。

Economist (1966) を初出文献とするのは翻訳語の bullet train (弾丸列車、新幹線) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定

着している。

Manch. Guardian Weekly (1966) を初出文献とする語は yokozuna (横綱) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Tel. (Brisbane) (1967) を初出文献とする語は shiatsu (指圧) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Japan Labor Bull. (1967) を初出文献とする語は shunto (春闘) である。これも他に異形がなく初出文献のとおり定着している。

L.HOLLERMAN *Japan's Dependence on World Econ.* (1967) を初出文献とする語は sogo shosha (総合商社) である。これは初出文献では sōgō shōsha であるが、*Guardian* (1972) 以降 sogo shosha となり定着している。

R.TOMIYAMA et al. in *Phytopathology* (1968) を初出文献とするのは和製語の rishintin (テルペン) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Japanese Nat. Railways News Lett. (1968) を初出文献とする語は shinkansen (新幹線) である。これは初出文献では Shin kansen であるが、*Times Lit. Suppl.* (1973) 以降 shinkansen となり定着している。

J.W.PURSEGLOVE *Trop. Crops:Dicotyledons* (1968) を初出文献とするのは複合語の soya meal (大豆粕) である。この用例掲載は初出文献のみである。

C.G.KUPER *Introd. Theory Superconductivity* (1968) を初出文献とするのは複合語の Yukawa-force (湯川力) である。この用例掲載は初出文献のみである。

C.YANGA *Big Business in Jap. Politics* (1968) を初出文献とする語は zaikai (財界) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

C.BEARD et al. *Symposium Surg. & Managem. Congenital Anomalies* (1968) を初出文献とするのは複合語の Ishihara plate (石原色盲検査表) である。この用例掲載は初出文献のみである。

Keio Jrnl. Med. (1969) を初出文献とする語は itaiitai (イタイイタイ病) である。これは初出文献では itai-itai byo である。*Biol.Abstr.*

(1970) での 'itai-itai' disease と *Biol. Conservation* (1973) での itai-itai とが併用されている。

Proc. Nat. Acad. Sci. (1969) を初出文献とするのは複合語の Okazaki fragment (岡崎フラグメント) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Observer (1969) を初出文献とするのは複合語の rickshaw cycle (輪タク) である。この用例掲載は初出文献のみである。

GOTO & HIGUCHI in *Fukuoka Acta Med.* (1969) を初出文献とする語は yusho (油症) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

New Yorker (1970) を初出文献とするのは複合語の karate-chop (空手チョップ) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

つぎの fugu (河豚), hibakusha (被爆者), nembutsu (念仏), ofuro (お風呂), tai-sabaki (体裁き) は、OEDに採用されなかった代わりに、SOEDに採用された5語である。ここではSOEDの年代表示(M20)に準拠した。

さらに、baka bomb (神風飛行機) と banzai attack (決死の突撃) は第二次大戦時と表記したW(3)に準拠し、Chediak-Higashi syndrome (チエディアック・東症候群) はM.Chediak fl 1952とO.Higashi fl 1954とを表記した12000words Supplement to W(3)ならびにSRHDに拠り、pompom (パンパン) も第二次大戦後と表記した『消えた日本語辞典』ならびにW(3), RHD(2)およびSRHDに準拠した。

また、Hirohito (裕仁親王), Hiroshima (広島、～の), Iwo Jima (硫黄島), Suribachi (擂鉢山) はそれぞれ1926年、1945年、1945年以降、第二次大戦中と表記したRHD(1)(2)に準拠した。柔道着の略称の gi (着) は1963年と表記した『バーンハート英語新語辞典』ならびにRHD(2)に、Esakidiodo (エサキディオード) は1957年江崎玲於奈によって開発されたと記した『カタカナ語辞典』ならびに、RHD(2)およびSRHDに、Tomonaga-Schwinger theory (朝永・シュレディンガー理論) は1948年における同理論の発表を記した『人名辞典－日本編』およびRHD(1)(2)に、

Yagi antenna (八木アンテナ) は1940-45と表記したRHD(2)およびSRHDに準拠した。松本清張『日本の黒い霧』の翻訳を借用した black mist (黒い霧) は1960年、小児科医川崎富作に因む Kawasaki disease (川崎病) は1967年と対米軍宣伝放送の女性アナウンサーへの愛称名 Tokyo Rose (東京ローズ) は第二次大戦中と記したSRHDに、東宝映画に登場した Godzilla (ゴジラ) は1954年と表記したSRHDならびに『カタカナ語辞典』に準拠した。

20世紀末期(以下L20と記す)において欧米の文献に採り上げられたのは banzuke (番付), Betamax (ベータ方式: ビデオテープレコーディングの方式), butoh (前衛舞踏), Euroyen (ユーロ円: 日本国外にある円預金), ibotenate (イボテニック酸塩), kaizen (改善), kanban (かんばん方式), karaoke (カラオケ), kogai (公害), mechatronics (メカトロニクス), Nichiren Buddhism (日蓮宗), Nikkei (日経: 日本経済新聞の略称), Nintendo neck (任天堂ネック), Noh mask (能面), nunchaku (ぬんちゃく), Pac-Man defense (対抗的買収宣言), ramen (ラーメン), rickshaw-tricycle (輪タク), Ryukyuan (琉球列島の、琉球人の), sai (鉏), samurai bond (円建て外貨), shabu-shabu (しゃぶしゃぶ), shishi (獅子), shokku (ショック), Shorin ryu (少林流), shosha (総合商社), shuriken (手裏剣), sokaiya (総会屋), soya (bean) milk (豆乳), soya sausage (大豆ソーセージ), soybean cutlet (大豆カツレット), soybean milk (豆乳), soy ink (大豆インク), soy oil (大豆油), soy protein (大豆蛋白), sumotori (相撲取り), sushiya (寿司屋), tamari (溜り醤油), tatami-floored (畳敷きの), tatami-matted (畳敷きの), tatami room (畳部屋), teppanyaki (鉄板焼), tokkin (特金: 特定金銭信託の略称), Tokyoite (東京人), Tokyo Round (東京ラウンド: 多角的な貿易交渉), Tsukahara tuck (塚原跳び), tsutsumu (包む), Walkman (ウォークマン: 携帯用小型ステレオ・カセット再生機), washi (和紙), yen bond (円債券), Yukawa (湯川秀樹の), zaitech (財テク: 財務テクノロジーの略称) の52語である。

Newsweek (1976) を初出文献とするのは

shosha (総合商社), sokaiya (総会屋), sumotori (相撲取り) の3語である。三者とも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

P. & J. MARTIN *Japanese Cooking* (1970) を初出文献とするのは sushiya (寿司屋), teppanyaki (鉄板焼) の2語である。前者の用例掲載は初出文献のみである。後者は他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

New Yorker (1970) を初出文献とする語は kogai¹ (公害) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Guardian Weekly (1970) を初出文献とする語は nunchaku (ぬんちゃく) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

T. EGAMI *Oriental Cooking* (1970) を初出文献とする語は shabu-shabu (しゃぶしゃぶ) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Ashmolean Mus. Rep. Visitors (1970) を初出文献とする語は shishi (獅子) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Time (1971) を初出文献とする語は shokku (ショック) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

D. MEIRING *Wall of Glass* (1971) を初出文献とする語は soya sausage (大豆ソーセージ) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

NAGASAWA & CONDON *Eating Cheaping in Japan* (1972) を初出文献とする語は ramen (ラーメン) である。これは初出文献では rāmen、*Washington* (1978) では ramen noodle であるが、*At Home With Japanese Cooking* (1980) 以降 ramen (ラーメン) となり定着している。

M. WARREN *New Bk. Gymnastics* (1972) を初出文献とする語は Tsukahara tuck (塚原跳び) である。これは初出文献では Tsukahara vault であるが、I. GROUMEZA *Nandia* (1977) 以降 Tsukahara となり定着している。

Country Life (1973) を初出文献とするのは複合語の rickshaw-tricycle (輪タク) である。

この用例掲載は初出文献のみである。

Express (Trinidad & Tobago) (1973) を初出文献とする語は sai (鉏) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

P.THEROUX *Saint Jack* (1973) を初出文献とするのは複合語の soy-bean milk (豆乳) である。この用例掲載は初出文献のみである。

Sat. Rev. World (U.S.) (1973) を初出文献とする語は Tokyoite (東京人) である。これは初出文献での Tokyoite と J.MELVILLE *Chrysanthemum Chain* (1980) での Tokyo-ite とが併用されている。

R.J.BLIN-STOYLE *Fund. Interactions & Nucleus* (1973) を初出文献とする語は Yukawa (湯川秀樹の) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Japan Econ. Jrnl. (1974) を初出文献とする語は Nikkei (日経) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。なお、限定詞としても Nikkei-Dow Jones とか Nikkei Stock Average のように用いられている。

S.MARCUS *Minding the store* (1974) を初出文献とするのは複合語の Noh mask (能面) である。この用例掲載は初出文献のみである。

D.F.DRAEGER *Mod. Bujutsu* (1974) を初出文献とする語は Shorin ryu (少林流) である。これは初出文献での Shorin Ryu と *N.Y. Times* (1980) での Shorin-Ryu とが併用されている。

Sci. Amer. (1974) を初出文献とするのは複合語の soy protein (大豆蛋白) である。この用例掲載は初出文献のみである。

Pop. Photogr. (1975) を初出文献とするのは和製英語の Betamax (ベータ方式) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。なお、max を付記してない beta も見られる。

N.Y. Times Mag. (1975) を初出文献とする語は tsutsumu (包む) である。この用例掲載は初出文献のみである。

Jrnl. Physiol. (1976) を初出文献とする語は ibotenate (イボテニック酸塩) である。これも異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Billings (Montana) *Gaz.* (1976) を初出文献とするのは複合語の soy oil (大豆油) である。

この用例掲載は初出文献のみである。

Internat. Jrnl. Productions Res. (1977) を初出文献とする語は kanban (かんばん方式) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

C.F.& F.M.VOEGELIN *Classification & Index World's Lang.* (1977) を初出文献とする語は Ryukyuan (琉球語、～の・琉球人、～の) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

C.McFADDEN *Seriell* (1977) を初出文献とするのは複合語の soya (bean) milk (豆乳) である。これは初出文献での soya milk と G.SCOTT *Hot Pursuit* (1977) での soya bean milk とが併用されている。

Spare Rib Jan. (1977) を初出文献とする語は tamari (溜り醤油) である。これは初出文献では tamari soy sauce であるが、G.DUFF *Vegetarian Cooking bk.* (1978) での tamari と *Times* (1981) での tamari sauce とが併用されている。

RIBNER & CHIN *Material Arts* (1978) を初出文献とする語は shuriken (手裏剣) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

T.HIROI *Kites* (1978) を初出文献とする語は washi (和紙) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Sunday Mail (Brisbane) (1979) を初出文献とする語は karaoke (カラオケ) である。これは初出文献での karaoke と McAllen (*Texas*) *Monitor* (1983) での karaoke music とが併用されている。

C.MACLEOD *Luck runs Out* (1979) を初出文献とするのは複合語の soybean cutlet (大豆カツレット) である。この用例掲載は初出文献のみである。

Jrnl. R. Soc. Arts (1979) を初出文献とするのは複合語の tatami room (畳部屋) である。この用例掲載は初出文献のみである。

J.MELVILLE *Chrysanthemum Chain* (1980) を初出文献とするのは複合語の tatami-matted (畳敷の) である。この用例掲載は初出文献のみである。

C.POTOK *Bk. of Lights* (1981) を初出文献とするのは複合語の tatami-floored (畳敷の) である。この用例掲載は初出文献のみである。

Trade Marks Jrnl. (1981) を初出文献とするのは和製英語の Walkman (ウォークマン) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Daily Tel. (1982) を初出文献とするのは和製英語の mechatronics (メカトロニクス) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Chicago Tribune (1985) を初出文献とする語は kaizen (改善) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Financial Times (1985) を初出文献とする語は Tokkin (特金) である。これも他に異形がなく初出文献に掲載のとおり定着している。

Economist (1986) を初出文献とする語は zaitech (財テク) である。これは初出文献では zaiteku であるが、*Washington Post* (1986) 以降 zaitech となり定着している。

banzuke (番付), Nichiren Buddhism (日蓮宗), samurai bond (円建て外貨) の3語は、OEDでは採用されなかった代わりに、SOEDにおいて採用されたのである。したがって、SOEDの年代表示(L20)に準拠した。Pac-Man defense (対抗的買収宣言) はRHD(2)での1980-85年ならびにSRHDでの1982年の表示に準拠した。

butoh(前衛舞踏)とEuroyen(ユーロ円)とは共に1980年と表示され、Nintendo neck(任天堂ネック)とsoy ink(大豆インク)の開発は1989年と、政府や会社が発行する国債・社債を指すyen bond(円債券)は1970年とTokyo Round(東京ラウンド)が行なわれたのは1973-79年である。以上の6語すべてはSRHDに準拠した。[(Ⅲ) むすびと参考文献については次号に掲載の予定]

(注)

- (1) 奈良県立商科大学「研究季報」第9巻第1号(1998年7月10日)、英語・米語辞典によって採用された日本語について論じたもの。
- (2) 文献初出の年代が明らかであるのは604語である。柔道に関する brown belt (茶帯) と

white belt (白帯) は、ともにSOEDに収録されているが、いずれもその年代表記がないので、今回は含めない。これに該当するのは上記の2語を含む8語である。なお、black belt (黒帯) のOEDにおける初出文献の用例として、1913 E.J.HARRISON *Fighting Spirit of Japan* iv. 59 The only outward distinction of rank in Kano school lies in the colour of the belt...From shodan upwards a *black belt* is worn. が掲載されている。この語は年代区分としてはE20に属する。

- (3) I.Rodriguez (ロドリゲス) 著『日本大文典』(Arte da Lingoa de Iapam) 長崎刊、1604-8年。
I.Rodriguez著『日本小文典』(Arte Breve da Lingoa Iapoa) マカオ刊、1620年。
- (4) (Vocabvlario da Lingoa de Iapam) 日本イエズス会が長崎学林で1603年に刊行した日本語ーポルトガル語辞典。今回は『エヴ・ラ本日葡辞書』を使用。
- (5) 『ヒデスの導師』天草刊、1592年。『落葉集』長崎刊、1598年。
- (6) Bozu バウズ(坊主) Bono nuxi. (坊の主) 自分の僧坊、または、小院を持っている僧侶。また、僧侶または剃髪者なら誰でも坊主という。『邦訳日葡辞典』岩波書店、1980年。
Bonzo.curai naqi iyaxiqiSo,ReligioSo comun,& Sem dignidadeー『エヴ・ラ本日葡辞書』清文堂、1998年。
- (7) OEDの引用文(Cocks'Diary)ではpagon priestesと記してあるが、pagan priestsではないだろうか。
- (8) 岩波『邦訳日葡辞典』: 内裏に仕える公家の家々。清文堂『日葡辞書』: Familias dos Cugueees queSerie ac Dairi.
- (9) CocksのDairyにおいてはitzebuをichibu、kamiをCamme Samme、kobangをCoban、mochiをmushos、norimonをneremon、samisenをshamisen、shogunをShongo Samme、taiをtayというように記してある。
- (10) その他、異形としてwakizashi(L19)がある。
- (11) 岩波『邦訳日葡辞典』: 日本の剣。
Catanauo vtcu,l,tcucuru(刀を打つ、または

作る) 刀 (Catanas) をつくる。

清文堂『日葡辞書』: Espada de Iapao. Catanauo vtcu l,tcucuru. Faz r catanas.

(12) かような事態となった要因はさだかではないが、ドイツ人ケンペル (1690) とスウェーデン人ツェンベリー (1775) との来日の狭間に当たる期間であることも注目すべきであろう。

(13) 原書名: Geschichte und Beschreibung des japanischen Reichs

(14) 櫓を当初 finoki と綴っていたのは、おそらくポルトガル人の綴り字に準拠したためであろう。『邦訳日葡辞書』における櫓は finoqi である。

(15) 車という語は、古くは「牛車」、「馬車」、「荷車」、明治・大正期には「人力車」、昭和期に入ると「汽車」、「電車」、「自動車」を指すように時代の変化に合った語である。

(16) hara-kiri が英語に借用された当初、その子音の骨組みはそのまま母音だけを入れ替えた harikari という語形に改変された。更にその改変が引き続き、harri-karri, hurry-curry といった異形も生じた。

(17) 同書34頁より引用すると、

ちょうど同じころ、パリではキモノ・スリーヴが流行していた。1913年ころ「キモノ・ジャケット」とか、「キモノ・ボディス」とか呼ばれていたものが、1914年以後「キモノ・スリーヴ」と呼ばれるようになったのである。

要するに、^{みごろ}襟と袖とに別々の生地をつなぎあわせるのではなく、同じ一枚の生地から仕立てたスタイルの服のことを指す。肩に継ぎ目がなく、パットも入れないから肩が張らず、なよなよとしたなで肩に仕立て上がり、いかにもやさしい感じのスタイルとなる。

なお、筆者によれば、冒頭の「ちょうど同じころ」とは、オペラ『蝶々夫人』が世界中でヒットしたころである。このオペラが役者の着用したキモノに対する西洋人の認識を高めるとともに、その普及に大変貢献したそうである。

(18) 同辞書において、「棺桶」が wooden kimono と名付けられた事由を次のとおり記してある。

[U.S.gansters' coinage as metaphorical extension and expansion of the earlier loan KIMONO, prob. guided by the kimono's

shape (approximately rectangular but narrower at one end), and by the fact that coffin's in the early 20th cent. were made of wood] (Term for) a coffin, used in the American underworld and in fiction depicting this.

これは木製で、一方の先端が狭まった長方形をなし、キモノに似ている。coffin と呼ぶ代わりに隠喩とした kimono を借用語としたアメリカ英語の俗語である。

(19) 「論文復刻『英語研究』の70年——もう一つの日本英学史」P. 3。

(20) 「英語青年」第124巻第4号 (1978年7月号) P.172。

(21) Suntory とは、日本の洋酒製造会社名、また、同社の製品名である。

この商標名の冒頭の“Sun”は赤玉ポーワインのマークの「赤玉 (太陽=sun)」と創業者・鳥井信次郎の「鳥井」を表す“tory”に由来している。因に創業時の社名は寿屋であった。

(22) これは「少し」(a bit, a little) の意味をもつ語で、当初は sukoshi と綴っていた。どういふわけで skosh と音韻変化したのか大変興味深い。